



未来へつなぐ福井の幸福

～一人ひとりが笑顔で希望を持てる社会へ～



行政経営戦略研修

平成25年10月

E班：チームちかちゃん

健康福祉部	医薬食品・衛生課	佐々木 千佳
土木部	奥越土木事務所	嶋田 良和
教育庁	学校教育政策課	原 淳一郎
福井市	財産活用課	平森 幸弘

目 次

要 約	2
はじめに ー幸福と希望についてー	3
第1章 福井県の幸福度と希望を考える	
第1 これまでの研究分析	
1 幸福・希望について	4
2 日本でいちばん幸せな県民	6
3 幸福度に関する研究会報告	8
4 福井の希望と社会生活調査	10
5 ふるさと希望指数（LHI）研究報告書	12
6 まとめ	15
第2 他県の事例	
1 東京都荒川区	17
2 熊本県	18
第3 意識調査	
1 調査手法	19
2 調査結果	20
3 研究のまとめ・分析	24
第2章 課題と理念・目標	
第1 課題	25
第2 理念と目標	26
第3章 政策提言	
第1 政策提言の方向性	27
第2 福井県に自信と誇りを持つ（福井プライドシステム）	
1 世界幸福フォーラムの開催	29
2 福井の幸福再発見プロジェクト	31
第3 若者のつながり応援（ウィークタイズ形成）	
1 若者仕事塾	37
2 働くきずな交流会	39
おわりに	41
資料編	44

要 約

【現 状】

1 実感の薄い「幸福度」と「希望」

福井県民

①消極的な幸福感

「不幸」とは思わないから「幸福」かな？

- ②考えたことがない
- ③幸福の **実感が**ない、よくわからない
- ④これが **当たり前** の生活

県外からの評価

- ①**住みやすさ日本一**（法政大学調査）
- ②**自然豊か**な福井県
- ③**家族のきずな**が強い
- ④**資源はある**のにPRが下手（歴史、観光）

2 20～30代で開く男女の差

- ・福井県の女性が高い幸福度をキープする一方で、男性が大きく落ち込む

3 その他

- ・希望が持てないのは、自分の将来像をイメージできないから
- ・家族のきずなが強い一方、社会的つながりが希薄



【目 標】

基本目標 : 全世代の「幸福度」を上げる（61%→70%）
（4年間）

短期目標 : 20～30代男性の「幸福度」を上げる（52%→62%）
（2年間）

【課 題】

課題1

主観的な幸福度の低さ
（不幸ではないから幸福）

課題2

20～30代、特に男性の幸福度の低さ

【政策提言】

福井県に自信と誇りを持つ

（福井プライドシステム）

- 事業1 世界幸福フォーラムの開催
- 事業2 福井の幸福再発見プロジェクト

若者のつながり応援

（ウィークタイズ形成）

- 事業3 若者仕事塾
- 事業4 働くきずな交流会

戦後、日本は世界有数の経済成長を果たし、今や私たちの周囲には、便利な家電製品が溢れ、急速なモータリゼーション化、IT化、グローバル化により、場所や時間を問わず、様々な商品や情報が入手可能になった。こうした物質的な豊かさとともに、精神的な豊かさ、幸福感は実感できているのであろうか。

近年、GDPやGNPといった経済的な規模や豊かさではなく、そこに住む人々の幸福度や満足度が注目されるようになってきた。

例えば、「世界一幸せな国」を掲げるブータンでは、国民総幸福「GNH(Gross National Happiness)」という概念が提唱され、独自に総幸福量の最大化が追求されている。

日本では、平成23年12月に内閣府経済社会総合研究所が「幸福度に関する研究会報告―幸福度指標試案―」を発表し、幸福度の指標化の基本的な考え方や体系化が試みられているほか、他県でも独自に幸福度研究が行われている。

福井県で「幸福度」が注目を集めたのは、平成23年10月に、法政大学大学院政策創造研究科の坂本教授・幸福度指数研究会が「47都道府県の幸福度に関する研究成果」を発表し、福井県が第1位を獲得したことであろう。子育て、学力・体力、雇用、女性活躍、安全・安心など様々な指標が全国トップクラスとなり、「幸福度日本一」として全国からの注目を集めることとなった。

一方、「希望」については、東京大学社会科学研究所の玄田有史教授による「希望学」研究が進められている。社会における希望の意味、そして希望が社会に育まれる条件など、岩手県釜石市や、平成21年からは福井県でも調査が行われ、地域に密着した調査、研究が進められている。

また、玄田教授によれば、希望とは、現状の維持を望むというよりは、現状を未来に向かって変化させていきたいと考えるときに表れるものであり、希望を持つとは、先がどうなるかわからないときでさえ、何かの実現を追い求める行為であるという。

本県は、「日本一幸福な県」となった。しかし、不確実・不安定な時代の中で、これからも幸福であり続けられる保障はどこにもない。

フランスの哲学者、アランは『幸福論』の中で、「幸福だから笑うのではない、笑うから幸福なのだ」と述べている。県民一人ひとりが笑顔で希望を持てる社会に向けて、何が必要か。

本プロジェクトでは、既存の調査を活用しながらアンケート調査やインタビューを交え、県民の「幸福」と「希望」について明らかにするとともに、「希望」を通じて県民が「福井に生まれて良かった、暮らして良かった」と思える社会の実現に向けた政策を提案していくこととしたい。

第1章 福井県の幸福度と希望を考える

第1 これまでの研究分析

1 幸福・希望について

福井県がリーダー県となってとりまとめた「ふるさと希望指数（LHI：Local Hope Index）研究報告書」によれば、「幸福」は、「今の状態がこのまま続いてほしいと思える満足感と捉えることができる。ただし、自らの将来・子どもや孫といった次世代の「幸福」の実現には「行動」が必要である。なぜなら、「幸福」は放っておいても、続くとは限らないからである。」とされている。

「幸福」と「希望」は似ているようで違う。幸福な人は、今の状態がいつまでも続いてほしいと思う。

それに対し、今よりもよい未来の訪れを信じられるときに感じられるのが、希望だ。今は生活も苦しいけれど、努力をして耐えていけば、必ず将来には良いことがある。そう信じられるとき、そこには希望がある。幸福が「継続」を求めるとすれば、希望は「変化」のなかでつくられる。（「希望学 あしたの向こうに」玄田有史編より）

「幸福」は現在の状態を指すのに対し、「希望」は、現状を未来に向かって変化させていきたいと考えるときに、表れるものであると考えることができる。現在、「幸福」である人は、その継続を求める。しかし、不確実な将来に向けて、「幸福」であり続けられる保証はどこにもない。将来も「幸福」であり続けるためには、「希望」を持つことが重要だと考える。

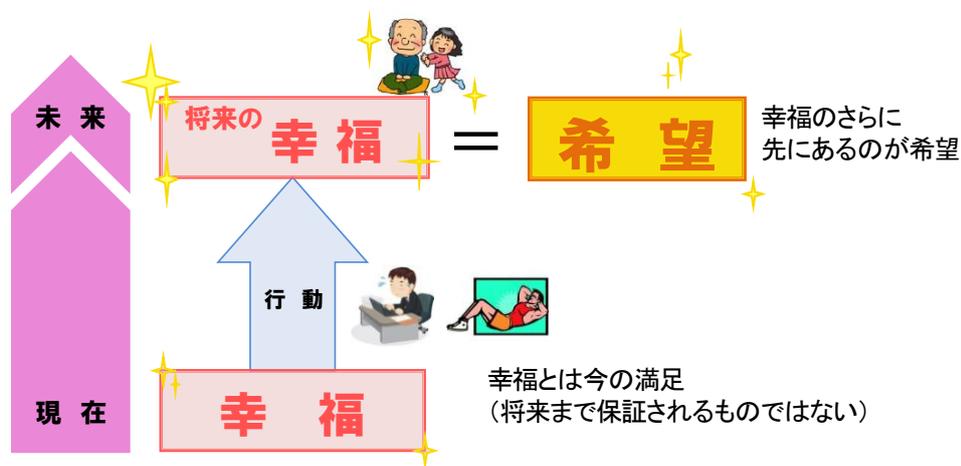


図-1 幸福と希望の一般的な意味

また、福井県に住む人々がこれからも「幸福」であり続けるためには、福井県に住む人々が「希望」を共有することが重要であると考えます。「希望」とはビジョンであり、これからも福井県をよくしていこうという行動を奮い起こす原動力となるからである。このためには、福井県に住む人々が、自分の住む地域に自信と誇りを持つことが重要であると考えます。自分の住む地域に自信や誇りを持つことなしに、行動を起こすことはできないからである。

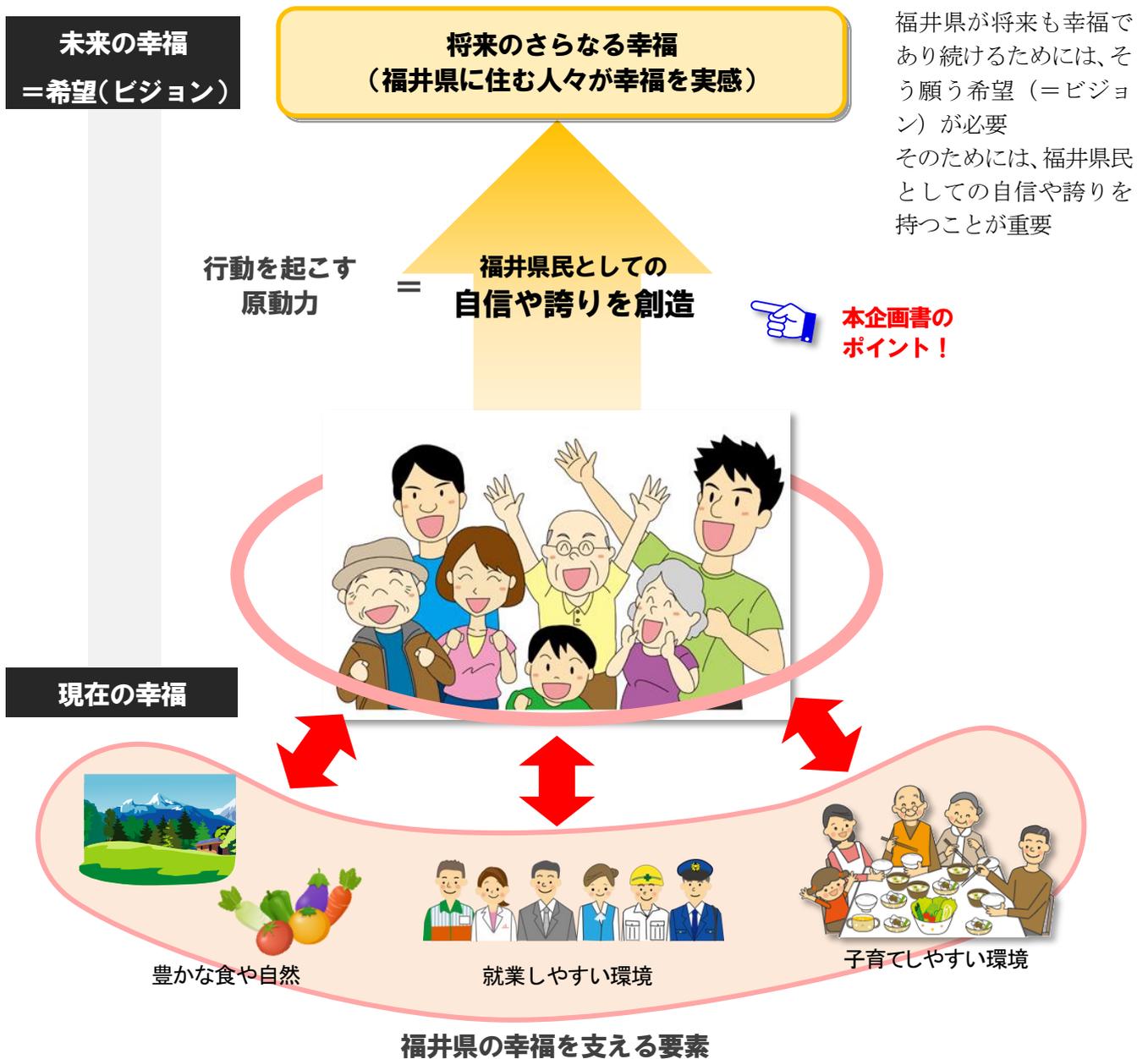


図-2 本研究における幸福と希望の定義

2 「日本でいちばん幸せな県民」(法政大学調査)

法政大学大学院政策創造研究科の坂本教授・幸福度指数研究会が発表した「47都道府県の幸福度に関する研究成果」では、地域の幸福度を客観的に示していると思われる指標を、さまざまな社会経済統計を活用し抽出する方法で、47都道府県の幸福度の現実を指標化・ランキング化している。

幸福度を測るモノサシとして、「生活・家族部門」、「労働・企業部門」、「安全・安心部門」、「医療・健康部門」の4部門に分け、計40の指標を抽出し、ランク付けがなされている。

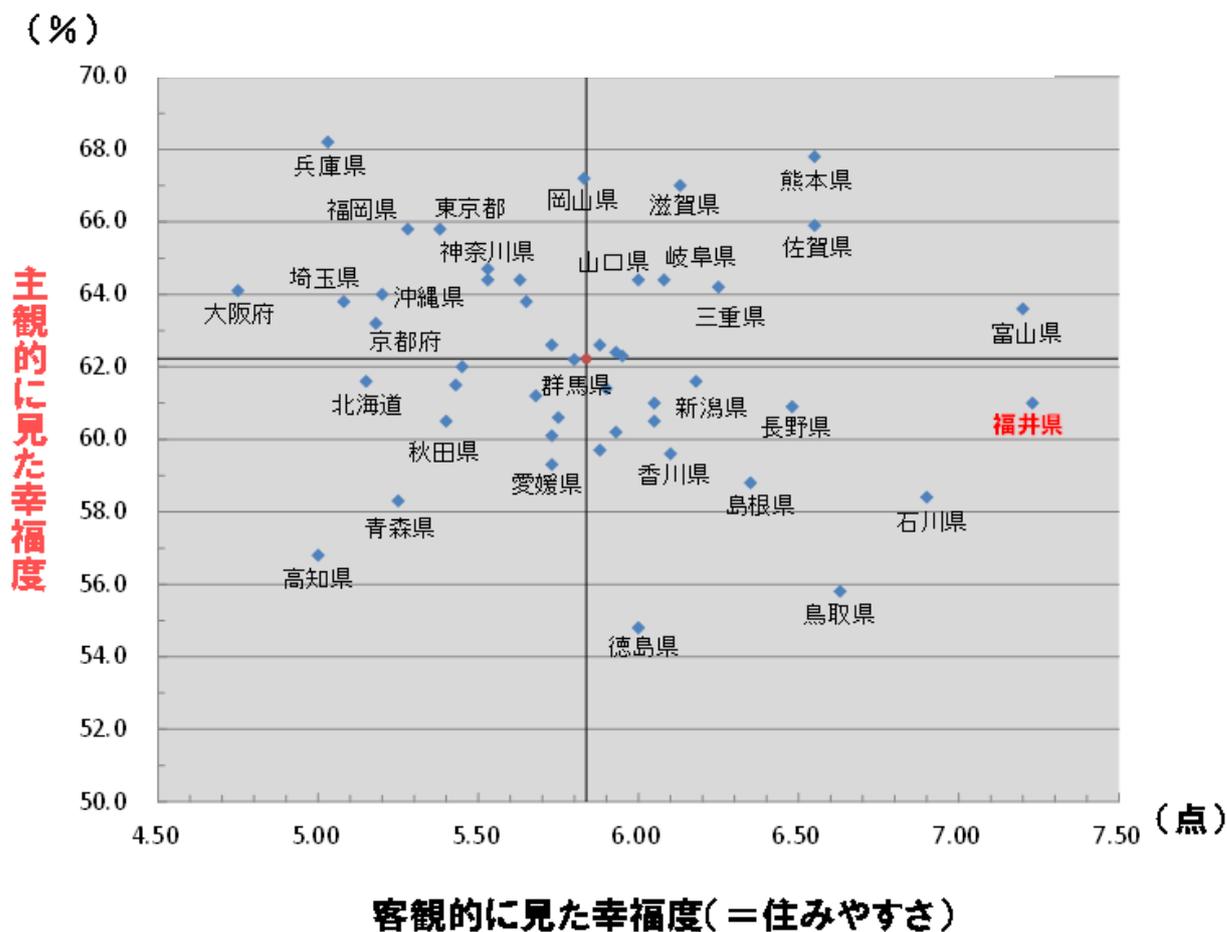
福井県は総合平均評点7.23点で第1位、4部門指標では「労働・企業部門」が1位、「安全・安心部門」が1位、「生活・家族部門」が3位、「医療・健康部門」が9位となっている。

なお、同研究では、本県を「未婚率が低く、出生率が高い。福利厚生面が充実し、住みやすい環境にある。労働時間が長く、よく働く県民性が表れている。貯蓄が多く負債が少ない、まじめな県民性が伺える」と評している。

(幸福度の指標)

- 生活・家族部門／9指標・・・合計特殊出生率、未婚率、転入率、交際費比率、持ち家比率、1人当たり畳数、下水道普及率、生活保護被保護実人員比率、保育所収容定員比率
- 労働・企業部門／10指標・・・離職率、総実労働時間、有業率、正社員比率、継続就業希望者比率、有業者の平均継続就業期間、完全失業率、障がい者雇用比率、欠損法人比率、作業所の平均工賃月額の実績
- 安全・安心部門／12指標・・・刑法犯認知件数、公害苦情件数、交通事故発生件数、出火件数(以上10万人当たり)、労働災害率、地方債現在高、負債現在高、貯蓄現在高、65歳以上1人当たり老人福祉費、手助けや見守りを要する者の率、悩みやストレスのある者の率、悩みやストレスを相談したいが誰にも相談できないでいる者の率
- 「医療・健康部門」／9指標・・・休養・くつろぎ時間、趣味・娯楽時間、1人当たり医療費、病院・診療所の病床数、医師数、老衰死亡者数、自殺死亡者数、平均寿命(男)、平均寿命(女)

同研究では、地域の幸福度を客観的に示していると思われる指標を用いて算定しており、これに「主観的に見た幸福度の評価」（「日本の幸福度 格差・労働・家族」日本評論社(2010)より）（※）を加えると以下のような図になる。



横軸（主観的に見た幸福度）＝「日本でいちばん幸せな県民」坂本光司&幸福度指数研究会
 縦軸（客観的に見た幸福度）＝「日本の幸福度 格差・労働・家族」日本評論社より

図-3 47都道府県中の福井県の幸福度マッピング

本県の「主観的に見た幸福度」は61%、全国31位となっており、客観指標と主観指標に大きなギャップが存在している。つまり、客観的な幸福度が、主観的な幸福の実感に結びついていないことがわかる。

※ 同書の主観的な幸福度の算定は、大阪大学COEで実施したアンケート調査を使用している。同調査では、「あなたはどの程度幸福だと感じていますか」という問いに対し、「非常に幸福」を10点、「非常に不幸」を0点として、「あなたは何点になるか」を聞いている。

3 「幸福度に関する研究会報告－幸福度指標試案－」（内閣府経済社会総合研究所）

政府が平成22年6月に閣議決定した「新成長戦略」の中で、「新しい成長及び幸福度について調査研究を推進する」ことが明記された。これを受け、平成22年10月に内閣府が「幸福度に関する研究会」を設置し、平成23年12月に「幸福度指標試案」を取りまとめている。

この中で、日本は先進国の中でも幸福度が低いとされ、さらに、日本の特異な点として、高齢者が最も幸福度が低いということが挙げられている。通常、先進国では年齢と幸福度はU字型（若年層と高齢者は熟年層よりも幸福）を描くとされている。

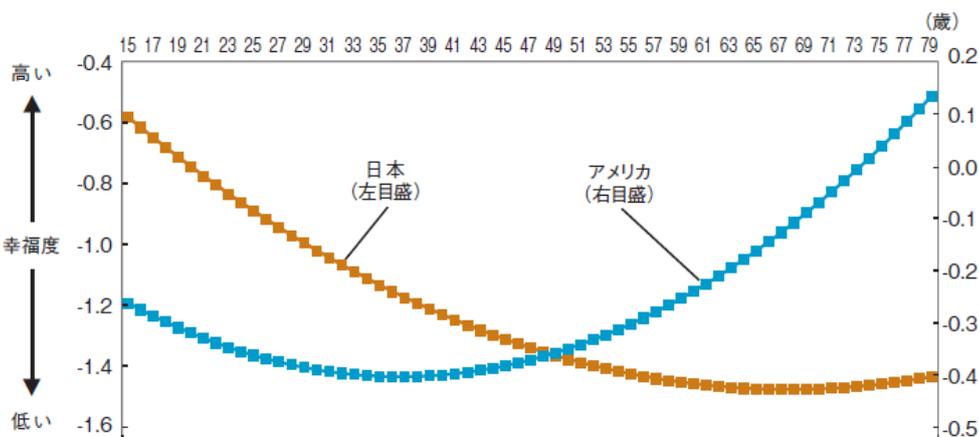


図-4 年齢毎の主観的幸福感

幸福度の指標化において、内閣府「国民生活選好度調査」の結果などから、「経済社会状態」、「心身の健康」、「関係性」についての3つの柱を立てることが提案されている。

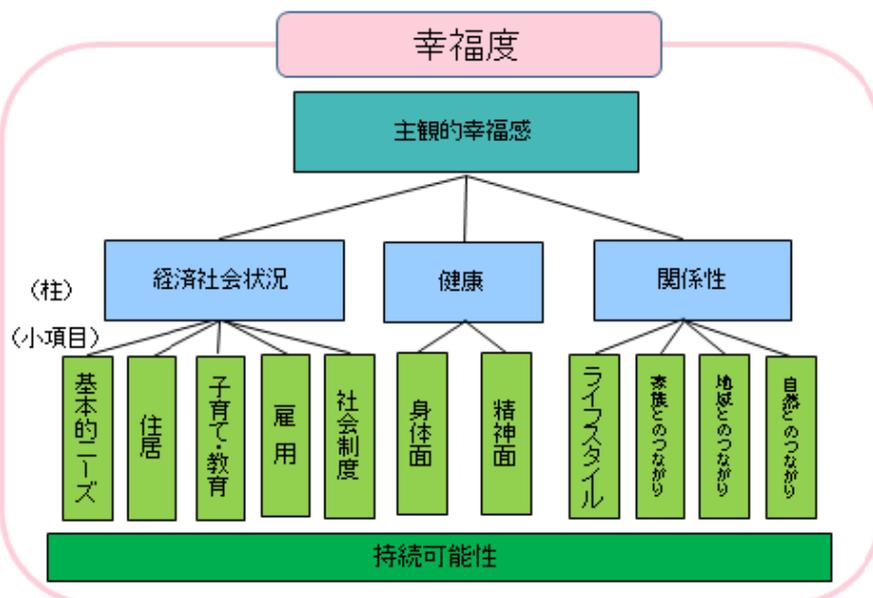


図-5 幸福度指標試案体系図

内閣府経済社会総合研究所（ESRI）は2012年3月に幸福度指標作成のために「第1回生活の質に関する調査」を実施している。当調査では、幸福度を多角的に捉えることが可能な質問項目を当該調査に盛り込んでいるほか、閉塞感が漂う日本の社会状況を考慮し、5年後の幸福度は現在と比べてどう変化すると思うかを質問している。内閣府経済社会総合研究所は「現在の幸福感が例え、高くても今後、幸福感が下がって行くと想定している者が多い社会も問題が生じていることを意味しよう」として、将来への希望についても重要な政策課題であることを示している。

表－1 幸福度に影響を与える要因

幸福度を上昇させる要因	幸福度を低下させている要因
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主観的健康感が高い ・ 世帯収入が多い ・ 既婚または、結婚経験がある ・ 休職中である（就労者と比較して） ・ 家事従事者である（就労者と比較して） ・ 職業生活引退者である（就労者と比較して） ・ 非就業者（その他の理由による）である（就労者と比較して） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 男性である ・ 求職中である（就労者と比較して） ・ 学生である（就労者と比較して）

表－2 5年後の幸福度に影響を与える要因

5年後の幸福度が現在より上がる	5年後の幸福度が現在より下がる
<ul style="list-style-type: none"> ・ 主観的健康感の高い人 ・ 世帯収入の多い人、 ・ 子どもを多く持つ人 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 加齢 ・ 最終学歴が高校卒業である（中学卒業と比べて）（※） ・ 学生である（就労者と比較して）

（※）今回の分析に使用したデータの中で最終学歴が中学校卒業以下の人は、高齢の人が多く、手に職をつけていたり、企業内で技術者として安定的に働いていたりとする特殊な状況にある可能性が高い点に注意が必要であるとしている。

4 「福井の希望と社会生活調査」(東京大学社会科学研究所)

福井県における人々の希望と社会生活の関係について調べることを目的として、東京大学社会科学研究所を中心とした研究プロジェクトチームが平成23年に実施したものである。

福井県の人々は全国よりもやや希望を持っている傾向が高いが、年齢とともに社会的孤立が進んでいる、県外から福井に移り住んだ人には社会サポートが少ない、若者の社会参加が少ないなどの課題も指摘されている。

図-6 福井の人々の希望
全国平均に比べてやや高い

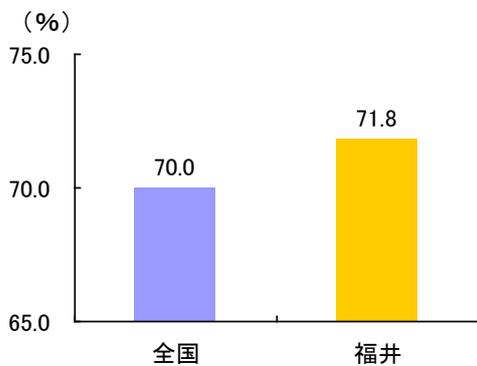


表-3 希望の内容
福井県では家族に関する希望が最も多い

順位	全国(2011年)	福井(2011年)
第一位	仕事(61.1%)	家族(61.8%)
第二位	家族(58.4%)	仕事(58.8%)
第三位	健康(38.5%)	健康(48.8%)

表-4 希望の実現に向けて行動しているか

希望は持っているものの、実現に向けた行動はしていない割合が高い

	(1)希望がある (%)	(2)希望の実現に向けて行動 (%)	(1)-(2)
全体	59.2	39.6	19.6
20代・30代	77.4	52.8	24.6
40代・50代	68.7	43.5	25.2
60代以上	45.0	31.6	13.4

図-7 社会的孤立(福井県の会話が少くない人の割合)

会話が少くない人の割合は、年齢と共に急増する

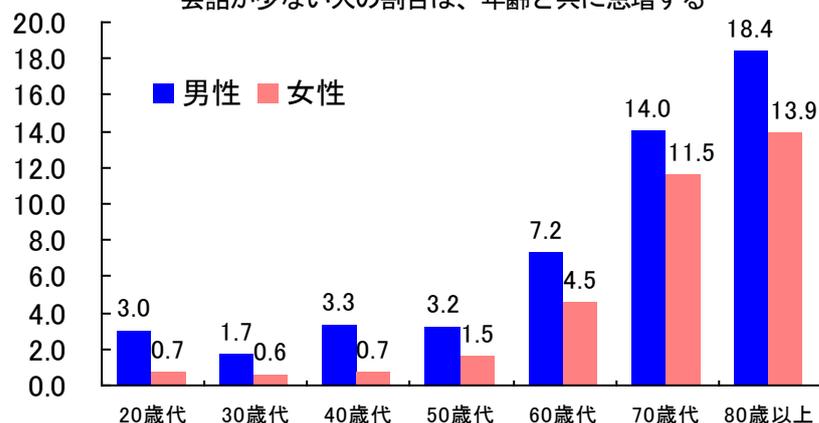


図-8 社会サポートがまったくない人の割合（福井出身者を1としたときの倍率）

県外から福井に移り住んだ人は、福井に長く住んでいても病気の時のサポートが得られにくい。

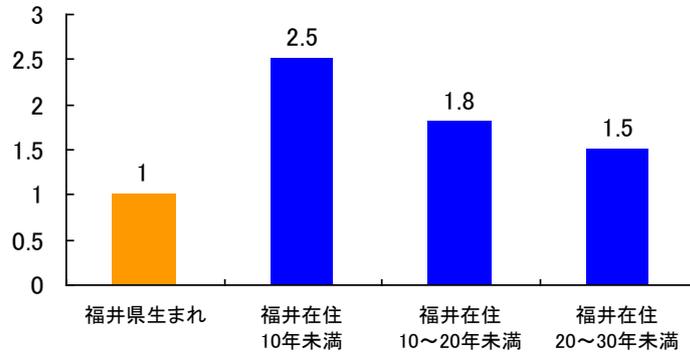


図-9 地域活動の参加の状況

20代、30代の地域活動への参加が少ない。

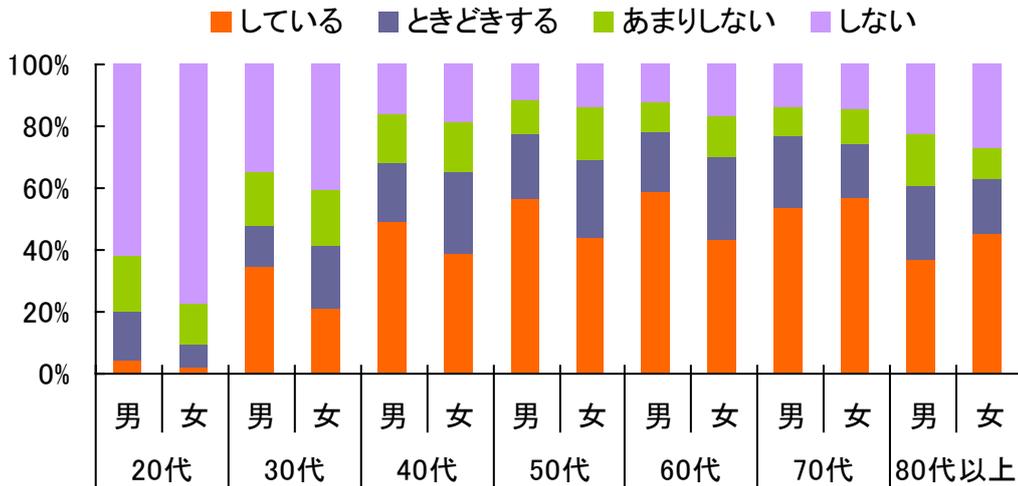
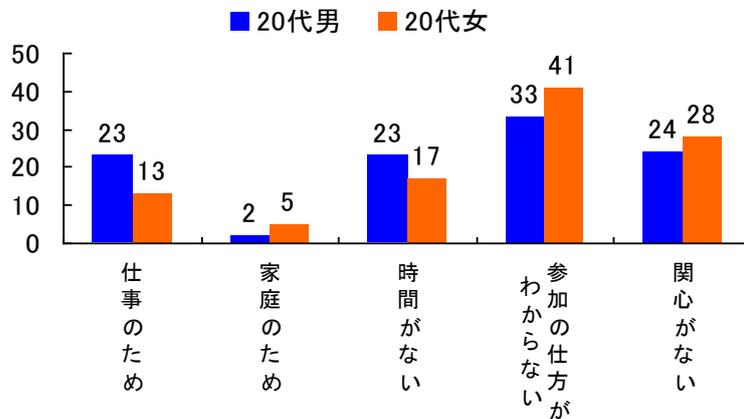


図-10 地域活動に参加しない理由

20代の若者が地域活動に参加しない理由は「参加の仕方がわからない」



5 「ふるさと希望指数（LHI）」研究報告書（ふるさと知事ネットワーク）

(1) 「ふるさと希望指数（LHI）」について

「自立と分散で日本を変えるふるさと知事ネットワーク」では、人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを明らかにし、「希望」という捉えどころのない概念を「見える化」するため、福井県がリーダー県となり「ふるさと希望指数（LHI：Local Hope Index）」を策定し平成24年3月に発表された。

◎ふるさと希望指数（LHI：Local Hope Index）とは

現在の暮らしに対する満足度などから得られる「幸福」だけではなく、より良い将来を実現するため、人々の「希望」につながり、「行動」によって達成できる要素を抽出したもの。
※統計数値などにより数値化したものではない。

(※)「ふるさと希望指数（LHI）研究報告書」より

また、先の東京大学社会科学研究所の「希望学プロジェクト」の知見を活用し、人々の「希望」を左右する分野の候補として、「仕事」、「家族」、「健康」、「教育」、「地域・交流」の5つを中心に検討が行われている。

(2) 「希望の意識調査（アンケート）」の実施

本研究では、人々の「希望」がどのような要素から生まれるのかを分析するため、プロジェクトに参加する11県（福井県、青森県、山形県、石川県、山梨県、長野県、奈良県、鳥取県、島根県、高知県、熊本県）および三大都市（東京都、愛知県、大阪府）の居住者を対象として『希望の意識調査（アンケート）』（以下「アンケート」という。）が実施された。

（調査方法） インターネットによる調査票配布・回収

（回答数） 3,935サンプル

（内訳） 14都府県の10代、20代、30代、40代、50代、60代以上の男女 それぞれ25サンプル（一部の区分を除く）

なお、上記調査結果を用いて、福井県と他県との比較を行ってみたい。

（福井県の回答数は、269サンプル）

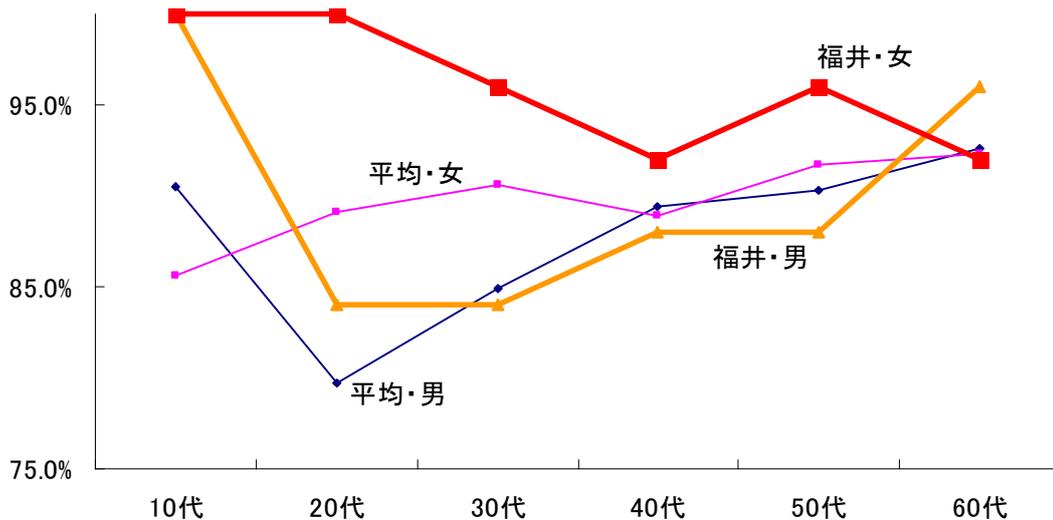


図-11 幸福であると回答した割合

「あなたは、現在、どの程度「幸福」だと思いますか。」の問いに対し、「幸せ」、「どちらかといえば幸せ」と回答した者の割合を、男女別、年齢別にみると、福井県の男性は20～30代の幸福度が若干低くなっている。一方、福井県の女性は60代を除き、男性より高い傾向がある。

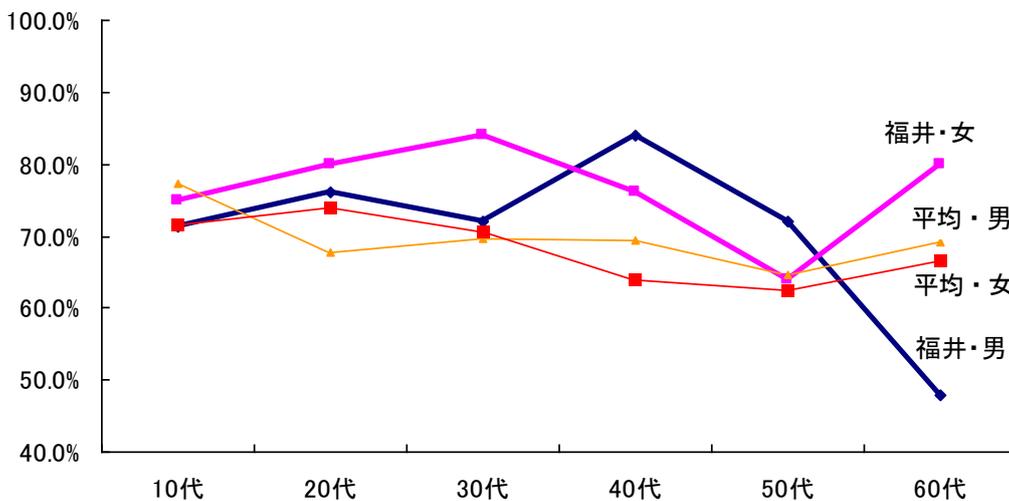


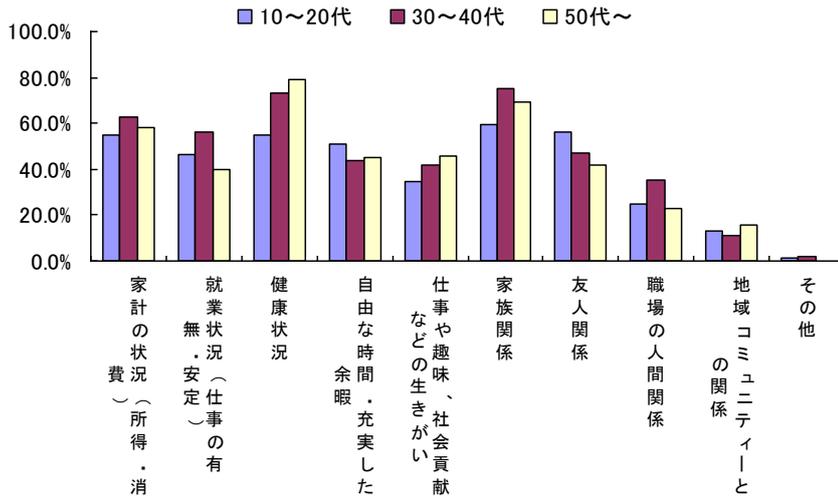
図-12 希望を持っている人の割合

一方、希望については、「現在、将来に対する「希望」(将来実現してほしいこと、実現させたいこと)がありますか。」との問いに対し、「非常にある」、「ある程度ある」と回答した者の割合を男女別、年齢別にみると、20～40代は福井県の男女ともに他県よりも高いが、50から60代にかけて、希望を持っている男性の割合が低くなっている。

幸福感を判断する際に、重視する事項を年齢別に聞いたところ、10～20代は「友人関係」、

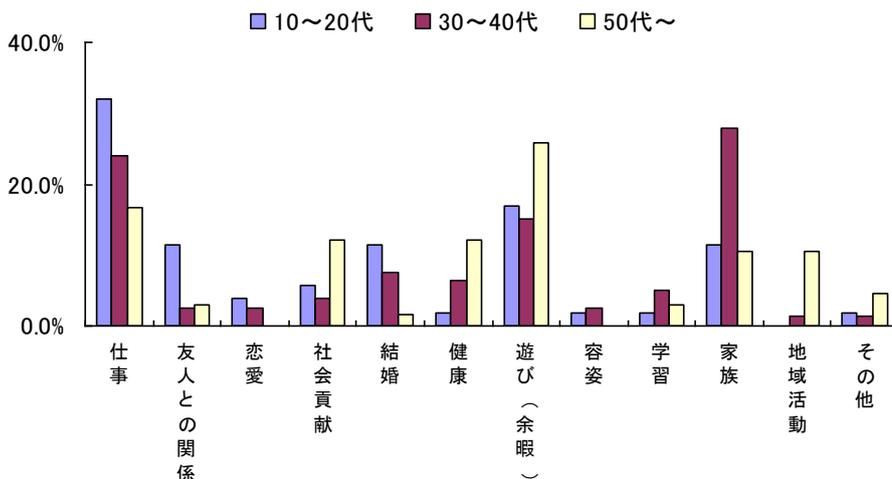
30～40代で「家族関係」、50代以上は「健康状況」を挙げる者の割合が高かった。「健康状況」や「仕事や趣味、社会貢献などの生きがい」は年代を追うにつれて、高くなる傾向がある。また、「家計の状況」や「就業状況」という所得に関するものは、30～40代が高くなっている。

図－1.3 幸福感を判断する際に、重視する事項



「希望がある」と回答した者に対し、それは何に関係する希望かを1つ挙げるよう聞いたところ、10～20代では「仕事」、30～40代では「家族」、50代以上は「遊び(余暇)」を挙げるものの割合が高かった。

図－1.4 希望の内容



現在、住んでいる都道府県に対して、誇りや愛着を感じているかどうかを尋ねたところ、「感じている」、「やや感じている」と回答した者の比率をみると、福井県は平均を下回っており、ふるさと知事ネットワーク11県の中では、山梨県、島根県、奈良県、青森県に次いで低くな

っている。

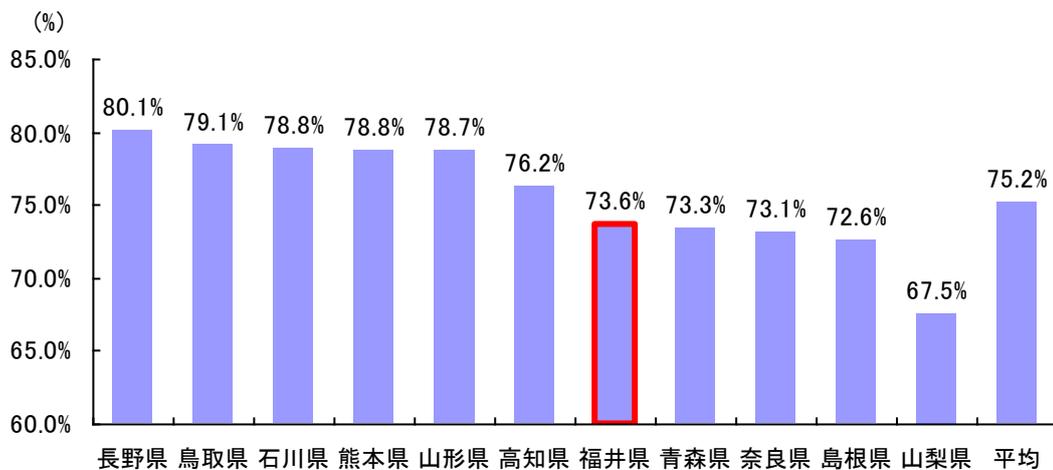


図-15 誇りや愛着度

6 まとめ

- ・ 他の調査研究でも同様、幸福感は男性よりも女性のほうが高い傾向にある。
- ・ 10代から20代にかけて幸福を感じている人の割合が低くなり、特に20代、30代の男性の割合は低くなっている。女性は20代から40代にかけて低下していく。
- ・ 幸福を感じる要因は年代によって異なる。
- ・ 福井県の幸福度と希望の関係をみると、10～20代の若者から30～40代にかけて、幸福度がやや低下する一方で希望は高まっている。また、50～60代の男性では、幸福度が高まる一方、希望が大きく低下する傾向がみられる。
- ・ 幸福と希望の関係については、幸福度の低下に伴い希望は上昇する傾向があり、幸福でないと感じるときにこそ、希望を持ちやすい傾向があるのではないかと推測される。
- ・ 福井県に住む者の、福井県に対する誇りや愛着度については、ふるさとネットワーク11県の中では、低い方である。

こうした点を踏まえ、特に20代から30代にかけて、男性の幸福度が低下することに着目し、意識調査を進めることとしたい。

10～20代の希望の内容をみると「仕事」が最も大きな要因となっており、例えば大学生にとっては、卒業後に希望どおり就職できるかどうか大きな問題となっている。

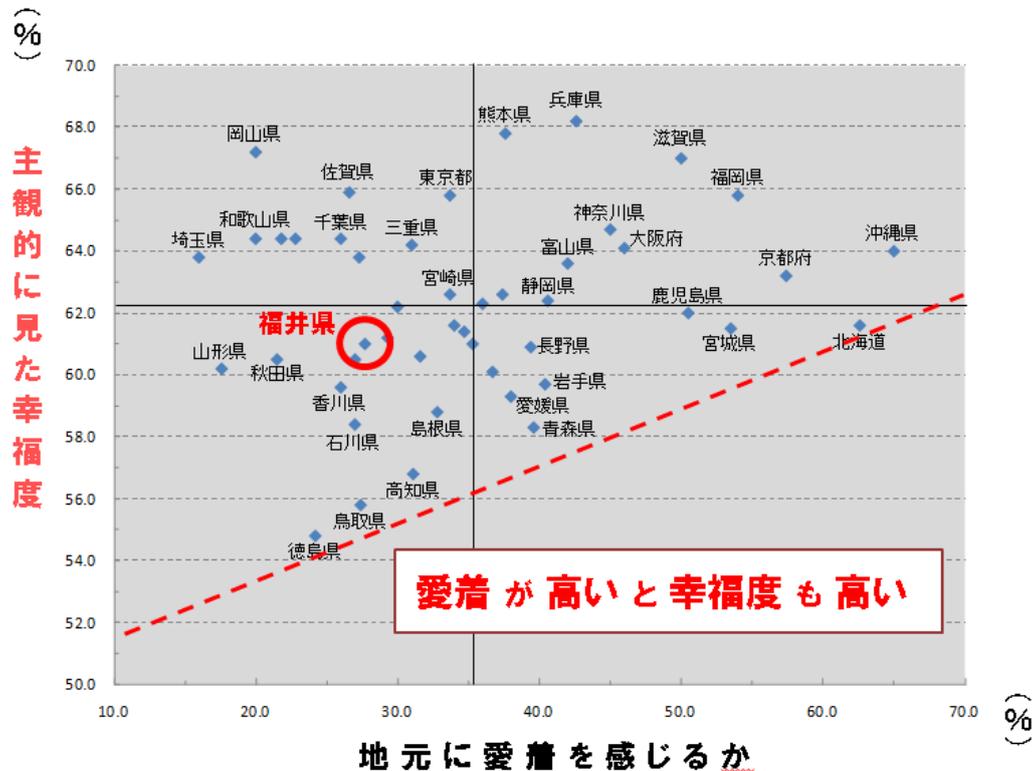
また、30～40代の希望の内容は「家族」が最も大きな要因となっており、家族が増えることによる幸福感の高まりの一方、将来の経済的な不安、仕事への重圧、親の介護など多くの不安を抱えることで、幸福感の低下要因となっているのではないかと考えられる。

また、50代男性の希望が大きく低下しており、幸福度が大きく上昇するのと相対的である。仕事や子育ての重責から開放される一方、希望は本当に喪失しているのだろうか。

さらに、地元に対する誇りや愛着度の低さについては、「幸福度日本一」にも関わらず、主観的に幸福感を実感することができないことと関連があるのではないかと考えられる。

この点についても対面式ヒアリングを通して、実際の声を聞いてみることにする。

(参考)



横軸＝(株)リクルート ジャらんリサーチセンター「ご当地調査 (2010年3月)」より
縦軸＝「日本の幸福度 格差・労働・家族」日本評論社より

図一 16 47都道府県の幸福度と地元愛

第2 他県の事例

1 東京都荒川区

荒川区では、他の自治体に先駆け、平成17年から荒川区民総幸福度（グロス・アラカワ・ハピネス：GAH）の取り組みを行っている。

平成21年に財団法人荒川区自治総合研究所を設立（平成23年より公益財団法人に移行）し、GAHに関する研究プロジェクトが推進されており、指標づくりや政策・施策・事務事業及び運動への活用について研究が行われている。



図-17 荒川区民総幸福度（GAH）指標の全体イメージ

幸福実感指標は、区民へのアンケート調査等により、区民の主観的な幸福実感を把握する指標である。

幸福実感指標は6つの都市像ごとに設定されており、指標数は「健康・福祉指標」9項目、「子育て・教育指標」8項目、「産業指標」7項目、「環境指標」7項目、「文化指標」7項目、「安全・安心指標」7項目となっている。

関連指標とは、幸福実感指標に関連する様々な主観指標及び客観指標のことであり、幸福実感指標で把握した区民の幸福実感上の課題をさらに多面的かつ詳細に把握するために活用される。

平成25年6月に、52自治体からなる、住民の幸福実感向上を目指す基礎自治体連合、通称「幸せリーグ」が設立され、住民の幸福実感向上に向けた基礎自治体間の相互の連携・協力や自治体職員学びの場を設けることにより、基礎自治体が互いに切磋琢磨し、行政運営の一層のレベルアップを図るものとしている。

2 熊本県

熊本県では、「県民幸福量の最大化」の考え方をもとに、平成22年度から幸福量の指標化に向けた研究に取り組んでおり、平成25年3月に「県民幸福量の指標化に係る調査」報告書を取りまとめた。

その中で、県民幸福量を測る指標として、県民総幸福量(AKH:Aggregate Kumamoto Happiness)と補助指標である「笑いの数」による幸福度指標(SI:Smile index)が提唱されている。

県民総幸福量(AKH)は、下図のように、「夢を持っている(夢、希望)」、「誇りがある(自然、文化、生きがい)」、「経済的な安定(稼げる、所得)」、「将来に不安がない(健康、安全・安心)」の4つの分類と12の項目から構成されている。

これを、県民アンケート調査によって満足度を測定し、県民総幸福量を算定している。さらに、4つの分類ごとに地域別に分析がなされ、必要な施策の方向性が提示されている。

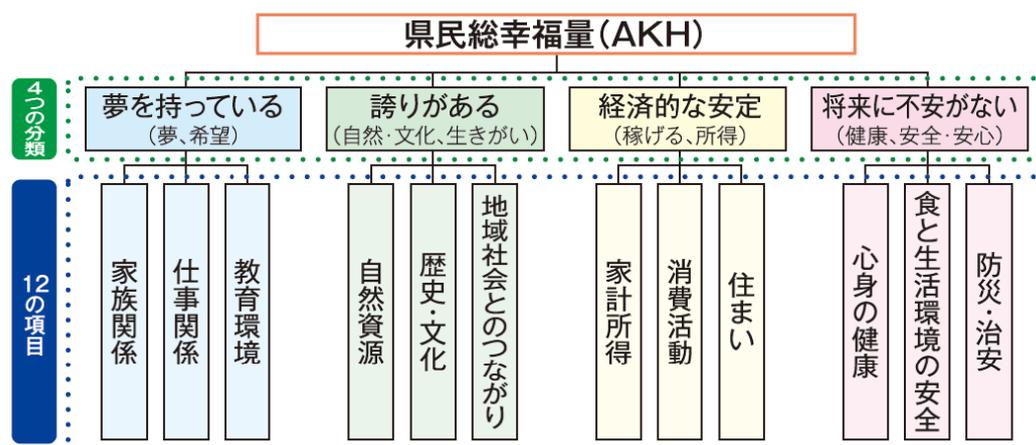


図-18 熊本県県民総幸福量(AKH)の全体イメージ

また、熊本県でユニークなのは、「笑いの数」による幸福度指標(SI:Smile Index)で、これは「笑いの数」で「幸福度」を測るという試みである。

「幸福ウォッチャー調査(幸福と笑いに関する県民調査)」

調査対象者に、1週間毎日同じ内容の調査に回答してもらい、1日の幸福度と、笑いの頻度を4段階(「すごく笑った」、「少し笑った」、「あまり笑わなかった」、「全く笑わなかった」)で回答する。

ここで、笑いの数が増えれば幸福度が増す、特に「家族の笑い」が大きく影響している、「仕事での笑い」は幸福度に結びついていない、などの興味深い示唆がなされている。

第3 意識調査

1 調査手法

客観的な幸福度が高いにも関わらず、なぜ福井県民は客観的幸福度を実感できないのか。この点を明らかにするために、下記のとおりアンケート、ヒアリング調査を実施した。

(1) 記述式アンケート

アンケートは選択式および幸福に必要な要素等について自由記入により行った。

表-5 アンケート概要

年齢層	対象者数
10代	143名
20代	173名
30代	51名
50代～	6名
合計373名	



(2) 対面式ヒアリング（エスノグラフィー）

複数人のグループと対面式によるヒアリングで、ざっくばらんな雰囲気の中で希望・幸福について自由に意見を言い合う形式で実施した。

エスノグラフィーとは

会話を通して幸福や希望に関するキーワードを拾い出し、その集団や年代が感じている意識を明らかにする調査手法。

表-6 対面式ヒアリング概要

年齢層	対象者数
20代	12名
30代	8名
60代～	14名
合計34名	



2 調査結果

(1) アンケートの主な回答結果

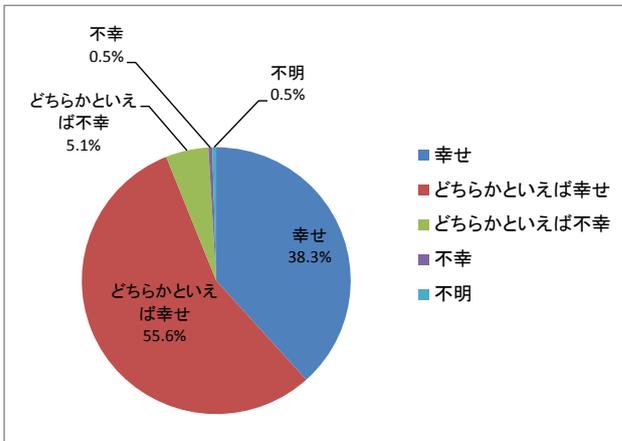


図-19 幸福度

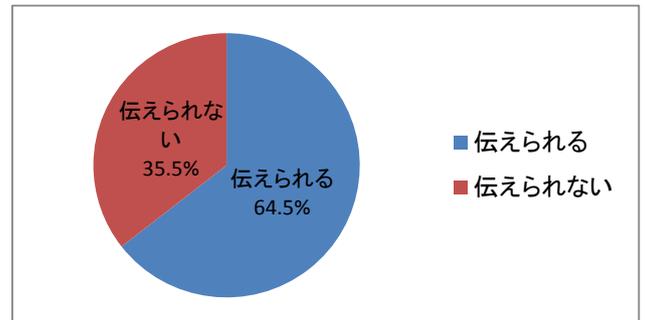


図-23 福井県の魅力を伝えられるか

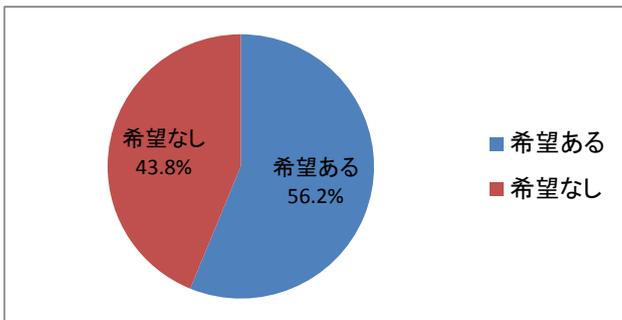


図-20 希望の有無

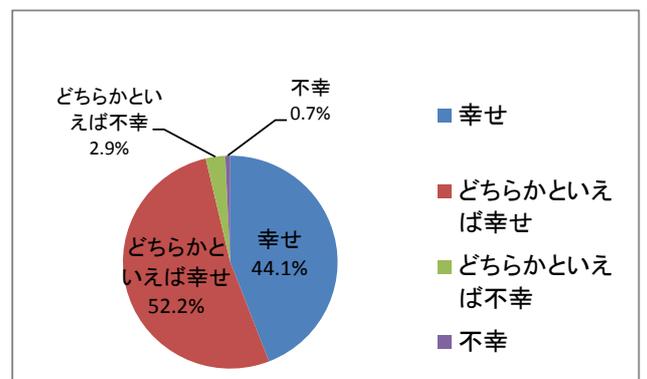


図-24 福井県の魅力を伝えられる人の幸福度

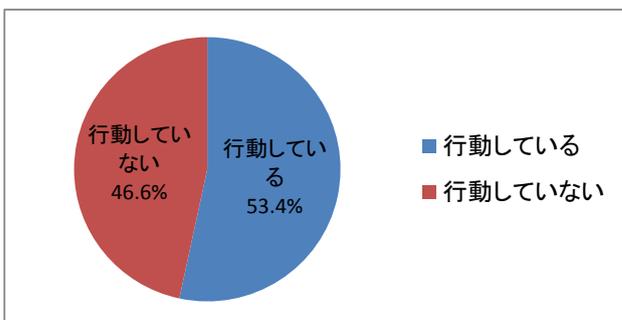


図-21 希望に向かって行動する人の割合

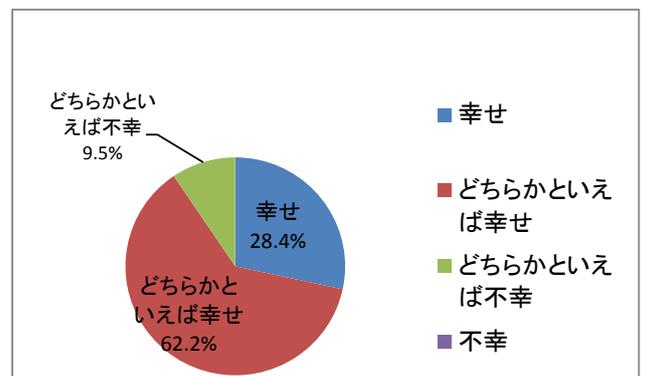


図-25 福井県の魅力を伝えられない人の幸福度

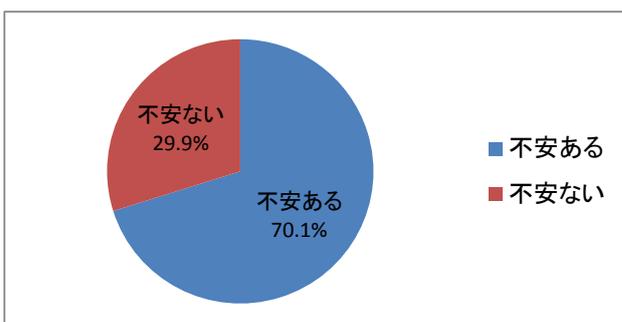
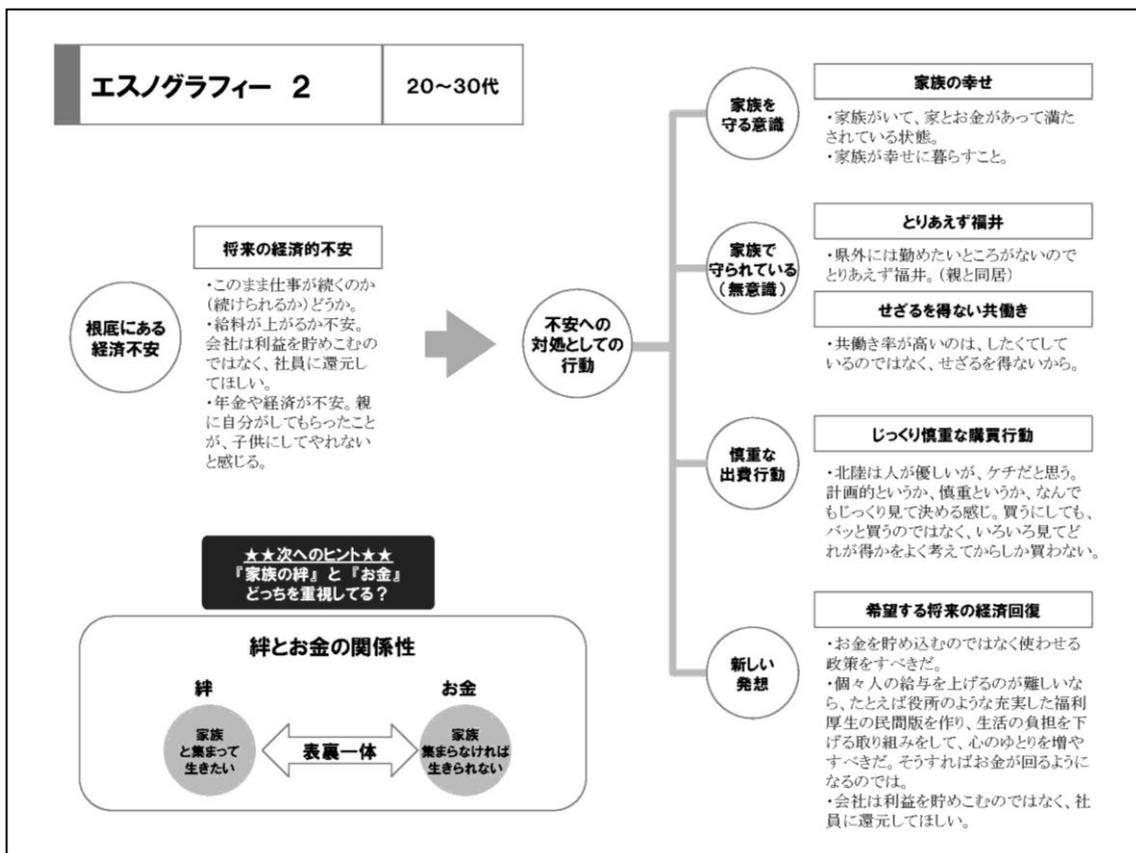
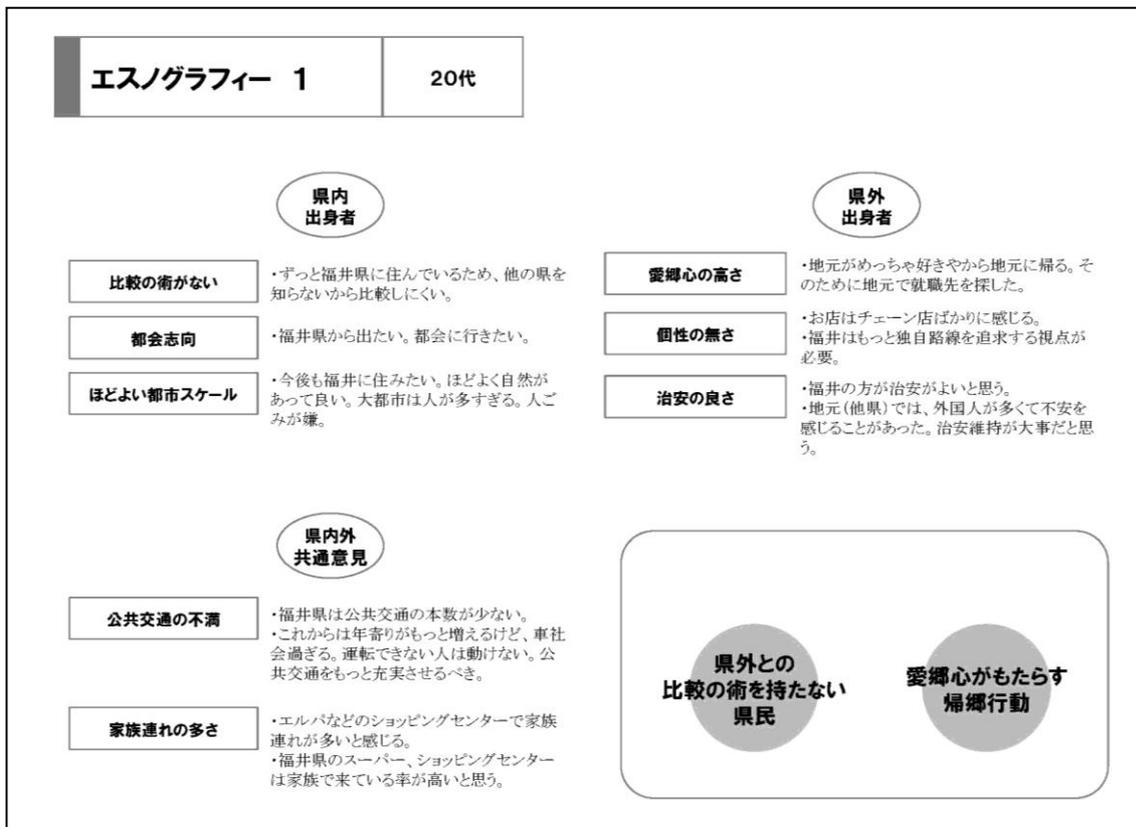
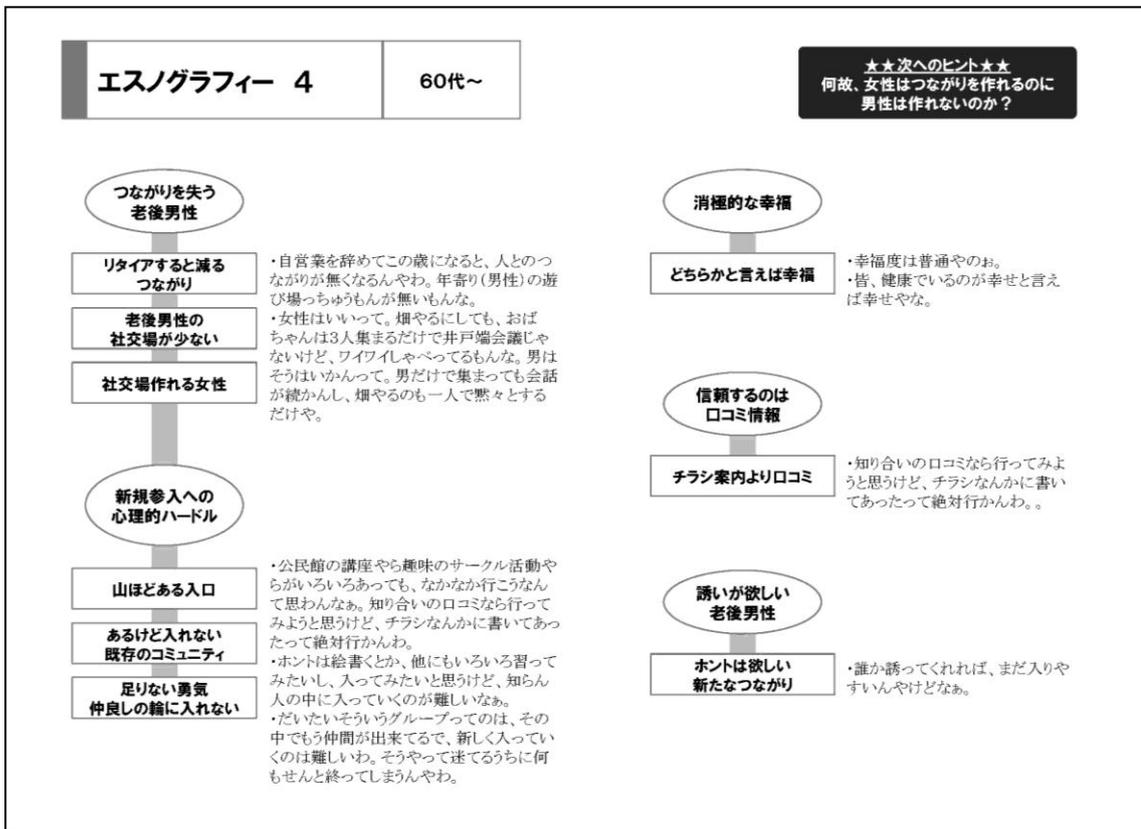
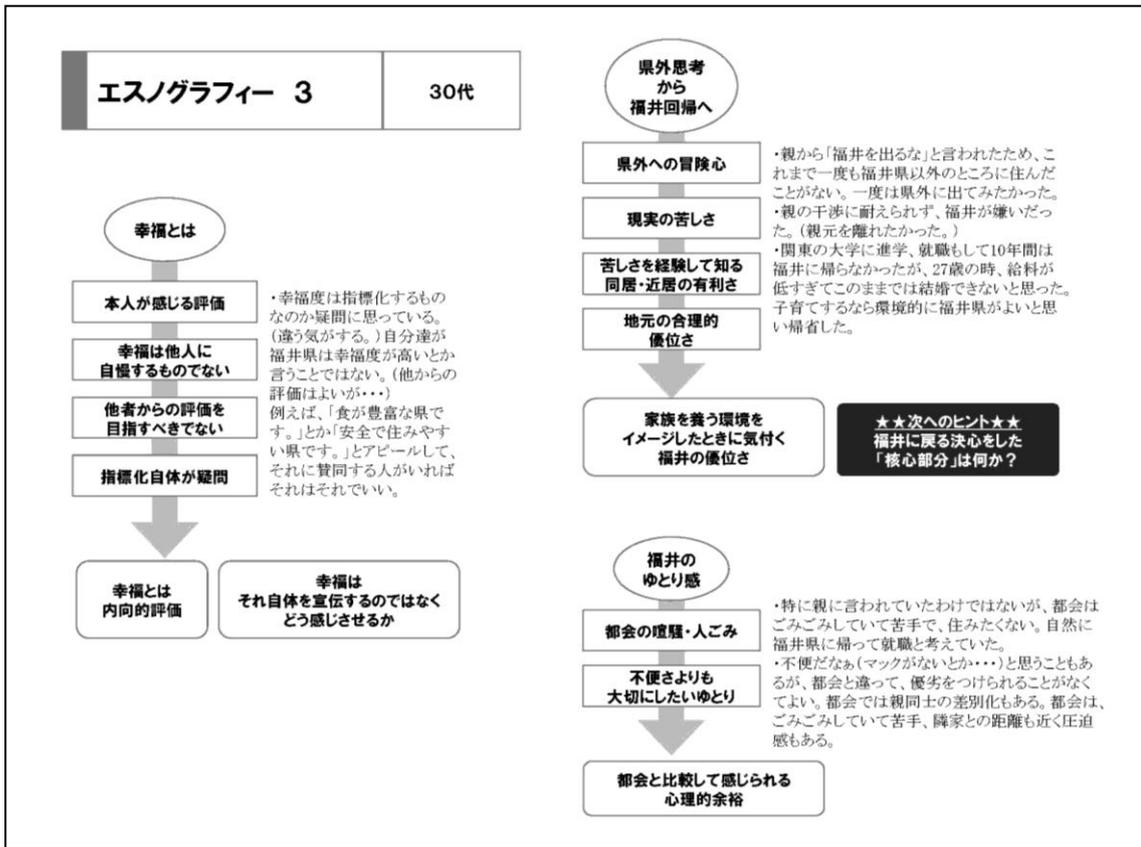


図-22 不安の有無

(2) 対面式ヒアリング（エスノグラフィー）の結果





エスノグラフィー 5

60代～

★★次へのヒント★★
何故、福井県民は
自然の豊かさに気付けないのか？

つながりを求める リタイア世代

強まる同期意識

縁や接点を重視する

共通の価値観を持った
集まり

つながりを
探してしまう自分

・やはりリタイアすると同期意識が強くなる
と言える。今まで全く音沙汰がなかった時代
の同級生から同窓会の誘いが多くなる。
みんなつながりを求めるようになり、接点や
縁を大切にしたいと思うようになる。仕事を
していた時代は精神的に出づらいう状況が
リタイアによって心に余裕が生まれるから
かもしれない。

・同窓生は共通の価値観を持った集まりで
あり、共通の言葉を持つ人のつながりだ。
昔から方言は仲間を区別する方法として
出来たとの説もある。同じ方言・言葉を話
す者たちと集まると安心感がある。

・知らぬうちに共通の趣味などでつながり
を探してしまう自分がいる。これから声を掛
けようとか、もっと関わろうなどと考えている。

家族がいる幸福感

幸福感を感じる
家族のつながり

・この歳になると、やはり家族が集まってく
れることが一番幸福を感じる。
・帰省した時に家族がわざわざ集まってく
れることがとてもうれしい。

恵まれすぎて 気づかない豊かさ

外部の人の目に
写る良さ

当たり前が故に
感じない自然の恵み

・福井には外部の人の目に写るよさがある。
例えば、食堂の弁当一つとっても、福井の
弁当には季節のものが入っている。これは
東京の弁当ではなかなかない。

・都会から見たらこんな素敵な水や自然は
いくらお金を出しても手に入れないも
のだということが、当たり前が故に感じられ
ない。それに気づくか否かが重要だ。もっ
と自然に誇りを持つべきだ。

祖父母がいる 子育て環境

三世代の同居・近居

・福井の幸福と言えば、子供の面倒を祖父
母が見てあげられる環境があることだ。嫁
と姑とのストレスはあるだろうが、それを乗り
越えれば相当な幸せがある。

・子供を祖父母に見てもらえるかどうかで
大きく生活環境が異なる。

今は感じられない 畑の恵みに近い暮らし

農家あれど八百屋なし

活かしきれない
農作物の恵み

・私の住んでいるところの近くには八百屋
がない。日常の食べ物を手に入れるのに
遠いスーパーまで行かなければならない。
これだけ周りに農家があるのにそれがもっ
たいないように思う。

・ひん曲がったきゅうりやなすびでもいいか
ら「一盛りいくら」とかで欲しいと思うのに、
商店にあるのはキレイなきゅうりばかりだ。
もった余った野菜を回す工夫をしたらいい
のにと思う。

3 結果のまとめ・分析

(1) 消極的な幸福

アンケートの結果によると、「どちらかといえば幸福」と答える人の割合が最も多く、「幸福」と答えた人を合わせると実に93.9%の人が幸福を感じている状況であった。対面式ヒアリングでは、「不幸かと言われればそうではないので幸福」と答える人が見受けられ、どちらかといえば幸福を選択した、つまり消極的な幸福感を持った人が多いことが予想される。

また、「福井県の魅力を他県の人に伝えられるか？」という問いに対し、「伝えられる」と答えた人と「伝えられない」と答えた人とは、「伝えられる」と答えた人ほど幸福度が高い傾向が見られた。対面式ヒアリングにおいても、地元に着を感じている人は、地元の就職先を探すなど積極的な行動が見られた。

(2) 先の見えない将来への不安

次に、「将来に対する不安はあるか」との問いに対し、70.1%の人が不安があると答えている。不安の中身について自由記入による内容を見ると、就職や安定した雇用・経済など、就労環境や安定した収入に対する不安が最も多くを占めている。対面式ヒアリングにおいても同様に、安定した生活ができるかどうかなど、将来を不安視する声が多く聞かれた。

(3) 高齢者の幸福と希望

60歳以上の高齢者に関しては、ふるさと希望指数(LHI)研究報告書のデータを活用した調査結果からは、希望を持っている者の比率が大きく低下していたが、対面式ヒアリングからは、希望の喪失というネガティブな印象は受けなかった。

むしろ、新たなサークルやコミュニティ活動への参加など、多様な活動を通して充実した老後を経済したいという積極的な意見が聞かれた。

第2章 課題と理念・目標

第1 課題

これまで、若者への意識調査などから見てきたとおり、福井県は、子育て、学力・体力、女性活躍といった様々な分野において全国トップクラスの水準であるにもかかわらず、幸福の実感（主観的な幸福）は必ずしも高くないのが現状である。

この理由として、控えめで謙虚であると言われる県民性から、積極的に自分から幸福であるとは言にくいということや、単に恵まれている状況が当然のものになりすぎて幸福であることを実感できないだけといったことも考えられる。そもそも、幸福の感じ方は人それぞれで、主観的な幸福度を問題にすべきでないという意見もあるだろう。

しかし、若者への意識調査を通して明らかになったのは、どこか自信を持たず、将来に漫然とした不安を抱えている若者の姿である。

表－7 本県の幸福や希望に関する課題と要因

課題	要因
主観的な幸福度の低さ (不幸ではないから幸福)	自信のなさ（福井県に対する誇りや愛着の低さ）
20代～30代、特に男性の幸福度の低さ	将来への漫然とした不安（特に職や雇用に関して）

客観的な指標に基づく幸福度日本一を達成した福井県の、次のめざすべき方向性として、福井県に住む人々が幸福を実感できる社会を実現するべきであると考えます。

このためには、福井県に住む私たちが幸福度日本一である福井に自信と誇りを持ち、「これからも、もっと福井県を幸福にしていこう」という気持ちを共有すること、これが福井県を良くしていこうという原動力＝「希望」につながるのではないだろうか。

ふるさと希望指数（LHI）研究報告書では、世代別の「幸福」、「どちらかといえば幸福」であると回答した人の割合を算定した（参考：P13 図-11）が、世代別の主観的な幸福度をみるため、「日本の幸福度 格差・労働・家族」（P7、図-3）に置き換えると、以下のようになる。

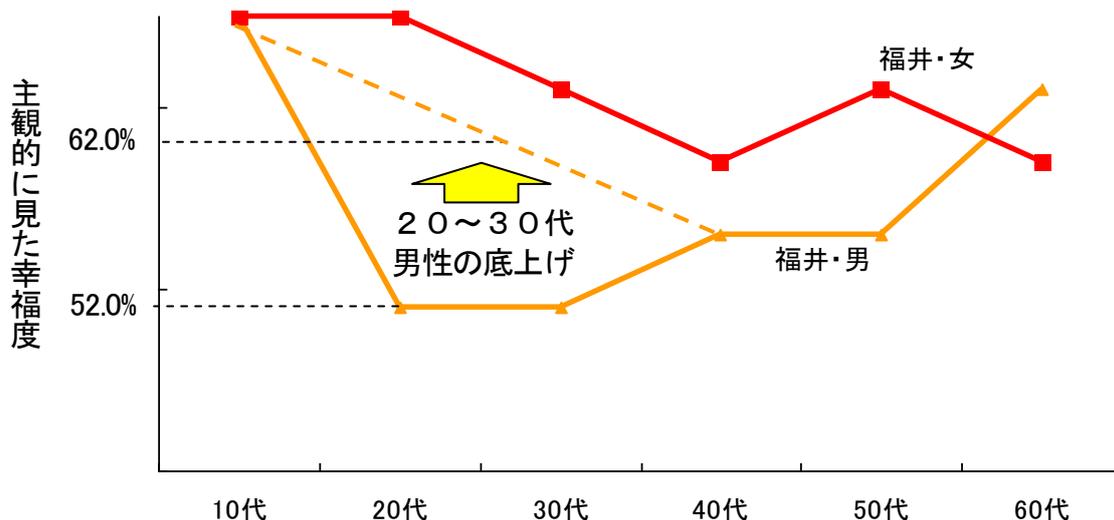


図-26 世代別の幸福度

第2 理念と目標

福井県に住む人々がより幸福を実感できる社会をめざし、以下のように目標を設定する。

理念 目標	福井県に住む人々が、より幸福を実感できる社会
	① 「幸福度」の平均値：61% → 70%（4年後）
	② 20～30代男性の幸福度：52% → 62%（2年後）

まず、県民全体の「主観的に見た幸福度」を、現在の61%から4年後の70%に引き上げることをめざす。（P7 図-3参照）（※1）

また、特に20～30代男性について、幸福であると感じられる人の割合を、現在の52%から62%に引き上げることを目標とする。（図-26参照）（※2）

※1 「日本の幸福度 格差・労働・家族」（日本評論社）で示されている、幸福度の主観的な程度の平均で、福井県は現在61%
「主観的に見た幸福度」が最も高い兵庫県が68%であり、福井県の目標として日本一をめざすべく、70%を設定

※2 図-26の現在の幸福度52%を、10代と40代を結んだ平均値である62%に引き上げる。

第3章 政策提言

第1 政策提言の方向性

福井県に住む人々が幸福を実感できる社会をめざし、このためには、まず福井県に自信と誇りを持ち、これからも福井県をよくしていこうという「希望」を持つことが重要である。

このため、希望につなぐための2つの戦略を提言する。

1 福井県に自信と誇りを持つ（福井プライドシステム）

- (1) 世界幸福フォーラムの開催 ～福井から幸福を世界に発信～
- (2) 福井の幸福再発見プロジェクト

2 若者のつながり応援（ウィークタイズ形成）

- (1) 若者仕事塾
- (2) 働くきずな交流会

なお、ふるさと希望指数（LHI）研究報告書におけるアンケート調査や、今回実施した意識調査においても、「幸福ではない」と回答した者も少なからずおり、不幸でない人を幸福にするための政策も当然、必要である。このため、客観的な幸福度の高さを構成する失業対策、福祉政策などセーフティネットの充実が引き続き求められる。このことについては今回の研究では取り上げていないが、人々が安心して生活を送ることができる最低限の生活を保障するために、非常に重要であり、引き続き推進していく必要がある。

1 福井県に自信と誇りを持つ（福井プライドシステム）

意識調査の結果からも明らかとなった「不幸ではないから幸せと言える」といった、幸福であることに自信がもてず、消極的な幸福感しか実感できないのは、福井県に誇りや愛着を持っていないからではないかと考えた。

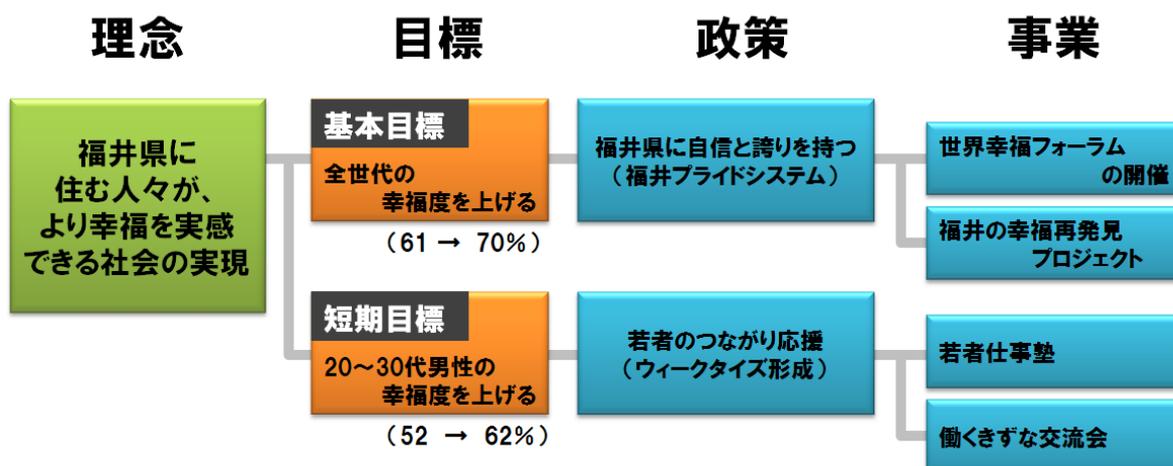
「幸福度日本一」である福井県にもっと誇りに感じてもらい、そこに住む県民にも自信（プライド）を持ってもらうため、福井の幸福を世界に発信するフォーラムの開催や、ふるさと教育における教材化、福井の魅力を再発見する取り組みを実施する。

2 若者のつながり応援（ウィークタイズ形成）

次に、20～30代の若者をターゲットに、希望につなげる政策を実施する。

意識調査の結果明らかになった、若者が最も不安に感じている雇用や就職に関して、若者同士のつながりを創出することにより、不安を希望に変える取組を実施する。

例えば、イベントを通じて希薄になりがちな地域や同世代のつながり（ウィークタイズ）を持つことにより人脈を広げ、新たなビジネスチャンスの発想や、雇用に対する不安や不満の軽減を図るものである。



図－27 政策体系図

第2 福井県に自信と誇りを持つ（福井プライドシステム）

福井県に自信と誇りを持ち、「福井県に生まれて良かった、暮らして良かった」と思える福井県民としてのプライドをつくるための政策を提案する。

1 世界幸福フォーラムの開催

(1) 現状

- ・ 幸福度については世界においても関心が寄せられており、国連の支援によってコロンビア大学地球研究所が2010年から2012年にかけて世界幸福度調査を実施し、世界幸福度レポートが発表されている。（2013年9月発表）
- ・ 世界幸福度レポートは、156カ国に住む人々の幸福度を国別のランキングにまとめており、評価基準としては、富裕度、健康度、人生の選択における自由度、困ったときに頼れる人の有無、汚職に関するクリーン度や同じ国に住む人々の寛大さなどの要素が考慮されている。
- ・ 同レポートによると、1位はデンマーク、2位ノルウェー、3位スイスなど欧州の国々が高順位を占めており、日本の幸福度は世界43位と、欧州に比べ低くなっている。
- ・ 福井県は主観的幸福度が61.0%（全国平均62.2%）と低く、幸福を実感していない。

(2) 目的

- ・ 世界的にも幸福度研究に関心が高まる中で、幸福や希望について考えるフォーラムを福井県で開催し、幸福度日本一である福井県の良さを世界に向けて発信する契機とする。
- ・ 福井県が主体となって世界的なフォーラムを開催することにより、県民の自信や誇りを高める効果が期待され、地元経済に対する大きな波及効果も期待できる。

(3) 事業内容

- ・ 幸福度研究において先進的な取り組みをしている国を招待
（ブータン、フランス、イギリス、タイ など）
- ・ 基調講演、パネルディスカッション ～幸福と希望～
東京大学社会科学研究所 玄田有史教授 ほか
- ・ 各国の取組紹介（ブータンのGNH、フランスのスティグリッツ委員会、イギリスの国民幸福度計測、タイのグリーン・幸福度指標 など）
- ・ 子ども幸福学（福井の子どもたちによる幸福研究発表）

- ・ 世界幸福宣言

各国が国民の幸福の最大化と希望が持てる社会づくりに向けて追及し、世界に発信していくことを約する宣言書に、各国代表が調印

(4) 事業イメージ

世界幸福フォーラムの開催

～福井プライドシステム～
ローカルアイデンティティ

福井の幸福度を世界に発信する



(5) 成果指標

- ・ フォーラム参加者数 5,000人

(フォーラム・関連イベントへの一般参加者のほか、運営に携わるボランティア等も含めた参加者数)

2 福井の幸福再発見プロジェクト

(1) 現状

- ・ 福井県に対して、誇りや愛着を感じている人の割合が他県に比べて低い。
- ・ 奥ゆかしい県民性（県外の人に福井の魅力を伝えられない人の割合が39%。来県者に対して「何もなくてすみません」が口癖となっている。（意識調査より）
- ・ 福井県主観的幸福度が61.0%（全国平均62.2%）と低い。

(2) 目的

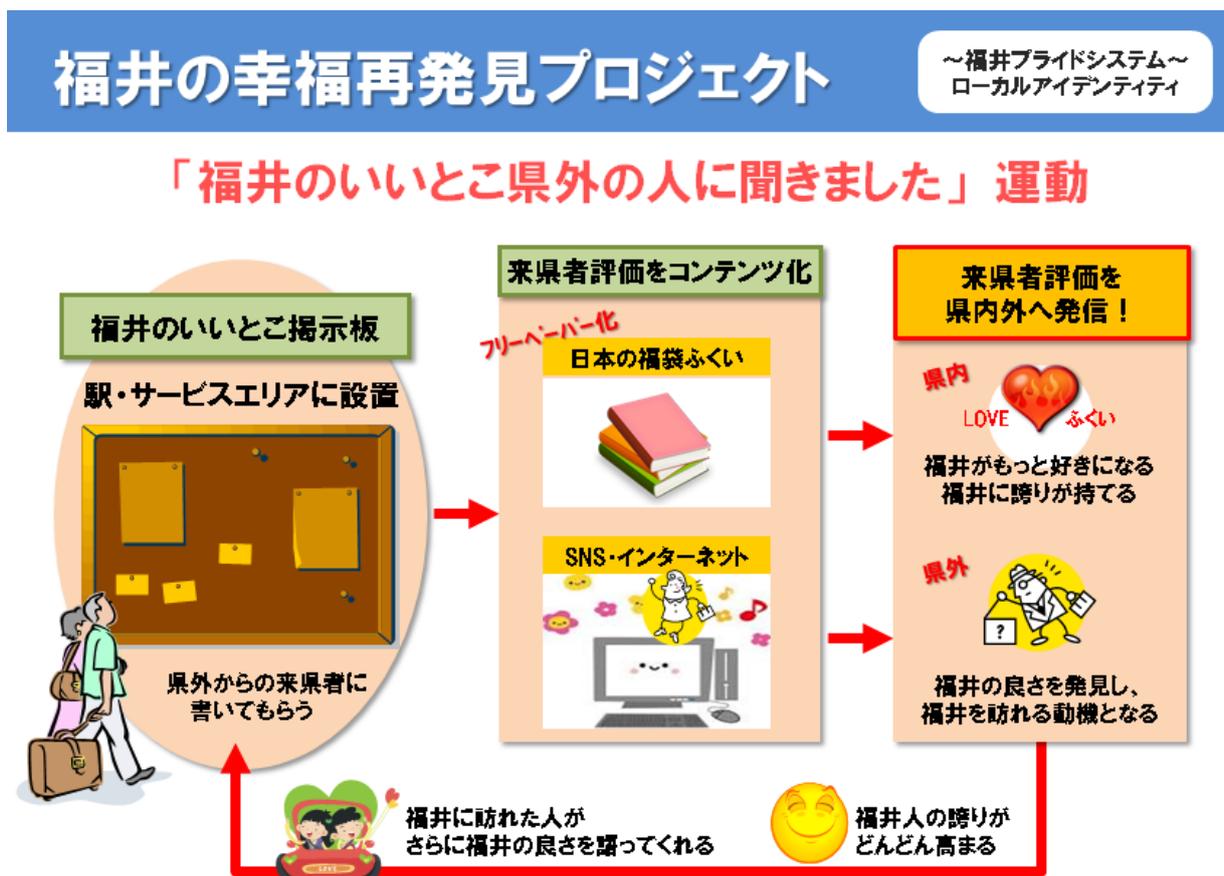
- ・ 県民が普段暮らしていて気づかない福井の『当たり前の良さ』を発見し、明らかにする取り組みを実施
- ・ 『当たり前の良さ』に対する県外の方から見た評価や、観光客の増加を通じて、県民の自信や誇りを創出し、希望につなげていく。
- ・ 福井県が誇る住みやすさを改めて認識し、これからの明るい自分たちの姿をイメージさせる。

(3) 事業内容

① 『福井のいいところ、県外の人に聞きました!』 運動

- ・ 来県者が多く訪れる駅3箇所および高速道路サービスエリア4箇所の計7箇所に掲示板を設置
- ・ 県外からの来県者に「福井県に来てよかった」と思ったところを紙に書き、それを掲示板に貼ってもらう。
- ・ 県庁内に担当セクションを設け、掲示板に貼られた紙を回収する（1回/月）
- ・ 県庁内の担当セクションがフェイスブックやホームページ等を開設し、県内外へ情報を随時発信
- ・ 取りまとめた意見をもとにパンフレットを作成し、来県者が宿泊する旅館や県民が日頃活用することが多いスーパーマーケット等に配布（年4回発行）

<事業イメージ>



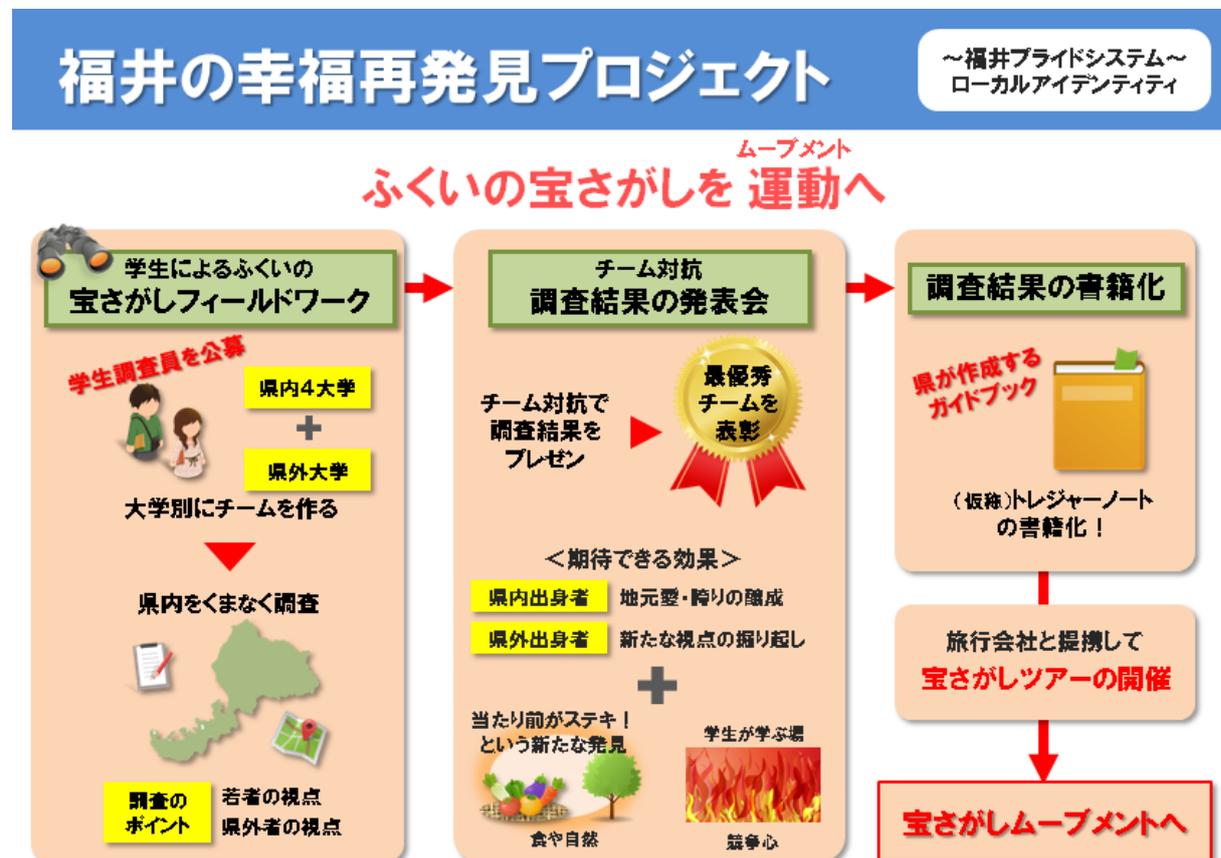
<成果指標>

- ・ 掲示板の設置数・・・・・・・・・・14箇所（4年後までに）

②『ふくいの宝さがし』運動

- ・ 県内外の大学に呼びかけ、4人1組でチームを作り、『福井の誇れるもの=宝』を探すフィールドワークを実施する。
- ・ フィールドワークが円滑に進められるよう公共交通機関のフリーパスを発行するとともに、県外者には県の宿泊施設を提供する。(芦原青年の家など無償提供)
- ・ フィールドワークで得た内容を発表してもらい、最優秀チームは表彰し公表する。
- ・ 発表された内容を県が『トレジャーノート=福井県のガイドブック』としてまとめ、出版社と連携して書籍化する。
- ・ 旅行会社と連携し、『ふくいの宝さがしツアー』を実施する。

<事業イメージ>



<成果指標>

- ・ 宝さがしツアー開催・・・・・・・・・・4回（4年後までに）

③幸福度の見える化 ～道標すごろく～

- ・ 福井県が幸福な要因を分かりやすく図示した「道標すごろく」を作成し、様々な場面で活用することで、広く県民に知ってもらおう。

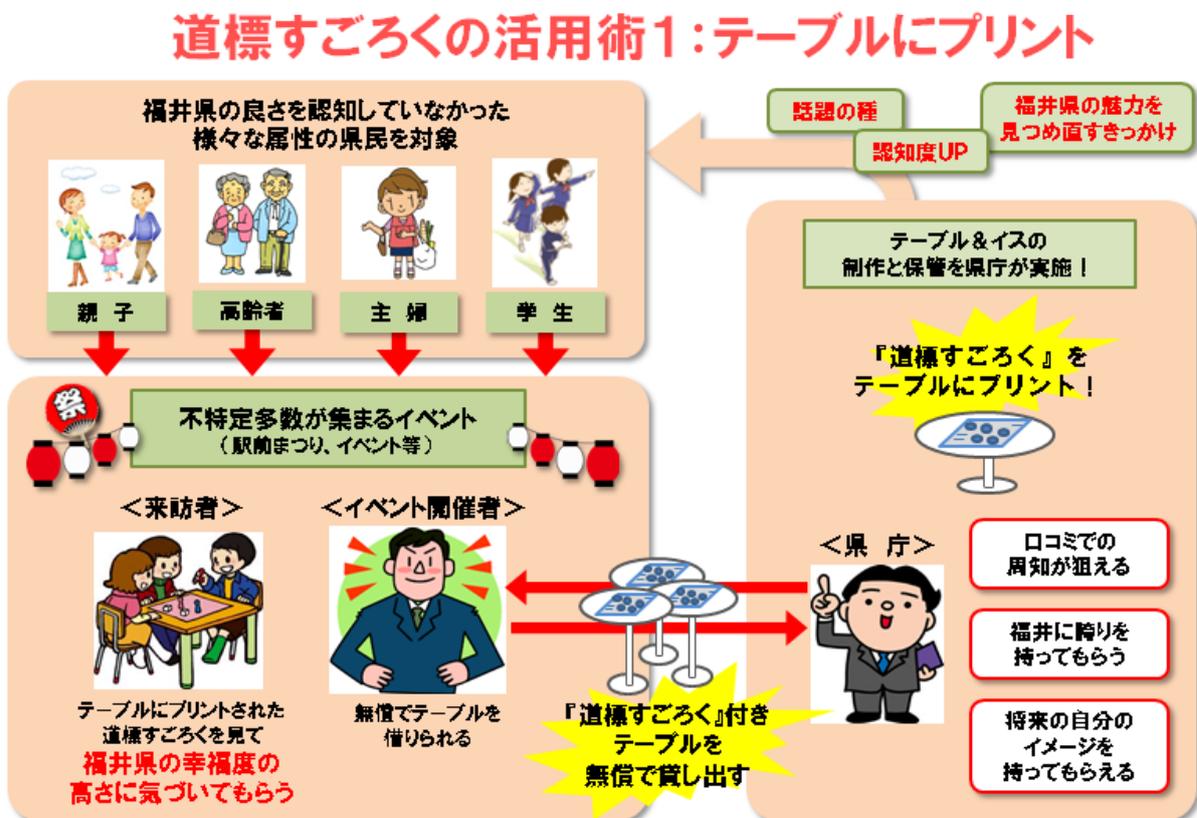
<事業イメージ>



活用術1 テーブルへのプリント

- ・ 大勢の人が目にする駅前イベント等にテーブルを貸出し、家族や友人間の話の種にする。
- ・ 行政担当は制作・保管を行い、イベント時にはその開催に向けて実行委員会等は無償で貸し出す働きかけをする。
- ・ 県立図書館の読書用、学習用テーブルにもプリントする。

<事業イメージ>



<成果指標>

- ・ テーブル貸し出しイベント数 …… 8回 (4年後までに)

活用術2 総合学習における教材として活用

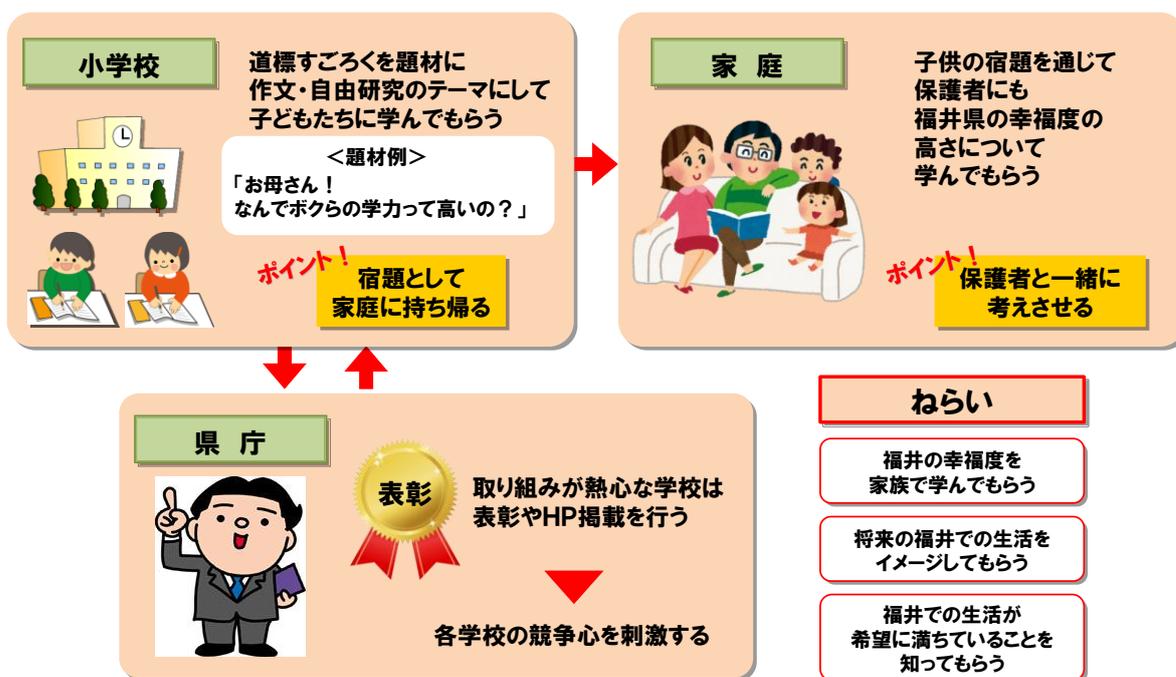
- ・ 小中学校の「総合的な学習の時間」を活用し、「福井の幸福探し」をテーマに、自由研究や児童生徒同士の話し合いなどの協働学習を実施
- ・ 学習を通して、福井県について深く学んでもらい、将来の自分達の生活をイメージしてもらう。

題材例：「お母さん！なんでボクらの学力って高いの？」

- ・ 保護者である親や祖父母にも参加してもらい、家庭でも一緒に考えてもらう。
- ・ 子どもたちの研究成果について、世界幸福フォーラムで発表

<事業イメージ>

道標すごろくの活用術2:総合学習の教材



<成果指標>

- ・ すごろく活用学校数 70校（4年後までに）

第3 若者のつながり応援（ウィークタイズ形成）

1 若者仕事塾

（1）現状

- ・ 今回実施した意識調査によると「不安がある」と答えた学生のうち、その理由として71%は就職への不安を挙げていた。
- ・ 進路を決めなければならない高校生や大学生の終盤になるまで、それぞれの職業の具体的な仕事内容に対する理解が低い。
- ・ インターンシップは就業体験を通して職業意識を高めるために行われているが、多くの企業に足を運ぶ機会は少ない。

（2）目的

- ・ 就職を控えた高校生や大学生達が多く企業を研究し、実際に訪問することにより様々な職業への理解と関心を深める。

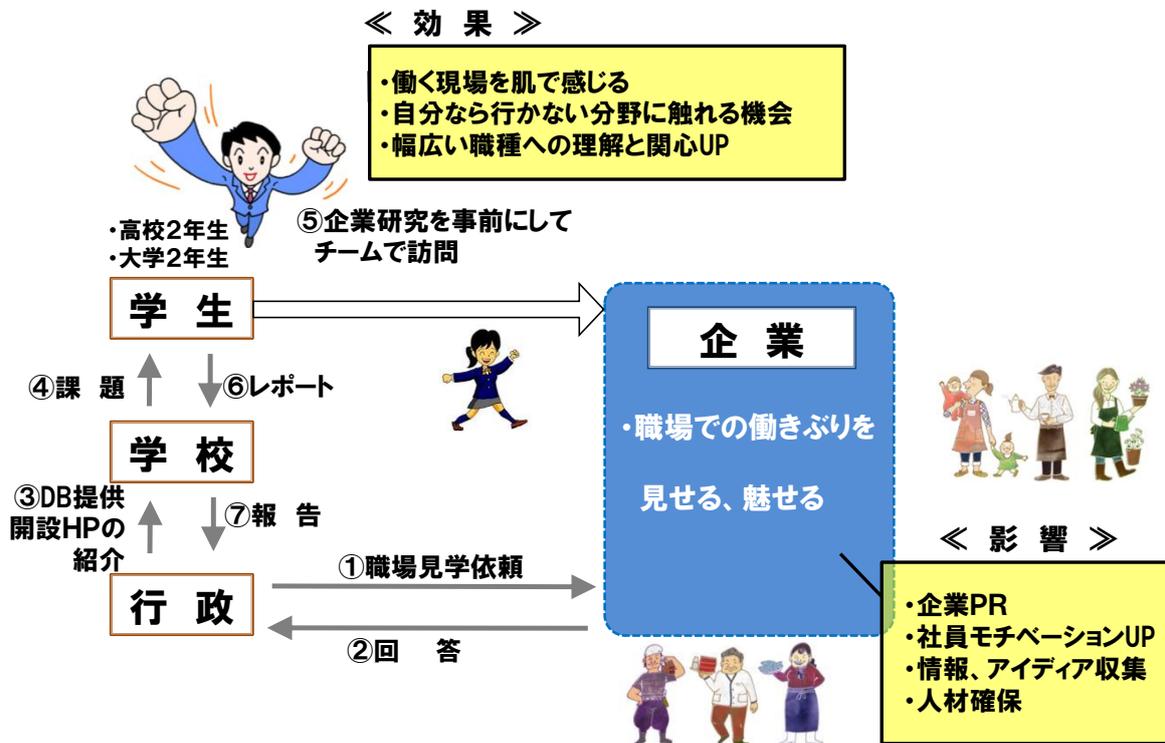
（3）事業内容

- ・ 県が事業に協力してくれる企業を募集し、専用HPに企業名や受入可能日などをデータベース化して掲載する。
- ・ 対象者は高校2年生、大学2年生とする。
- ・ 学生は3～5人組のチームとなり、幅広い業種の企業等の業務・活動内容についてインターネット等を活用して研究する。
- ・ 県が開設した専用HPから、希望する企業の受入可能日を確認し、夏休みなどの決められた期間内に企業訪問する。（複数の企業をセットにする）
- ・ 研究結果についてレポートにまとめ学校に提出する。
- ・ 学生が企業訪問で集めた情報を次年度以降の学生や企業にフィードバックする。
- ・ 企業の負担とならないよう、基本的に職場で説明会等はしない。

(4) 事業イメージ

若者仕事塾

～若者のつながり応援～
ウィークタイズ形成



(5) 成果指標

- ・ 若者仕事塾参加チーム …… 170組 (2年後までに)

2 働くきずな交流会

(1) 現状

- ・ 意識調査の結果、業務以外で別の会社員と交流する機会は少なく、違う業種との交流は更に少ない。
- ・ 社会人の新採から中堅にかけての層では、雇用が続くかの不安や賃金など労働条件への不満を抱えている人が多い。（「不安がある」と答えた働く20～30代の53%は仕事関係）
- ・ 中小企業は採用人数が少ないため、同期が少ないものと考えられる。

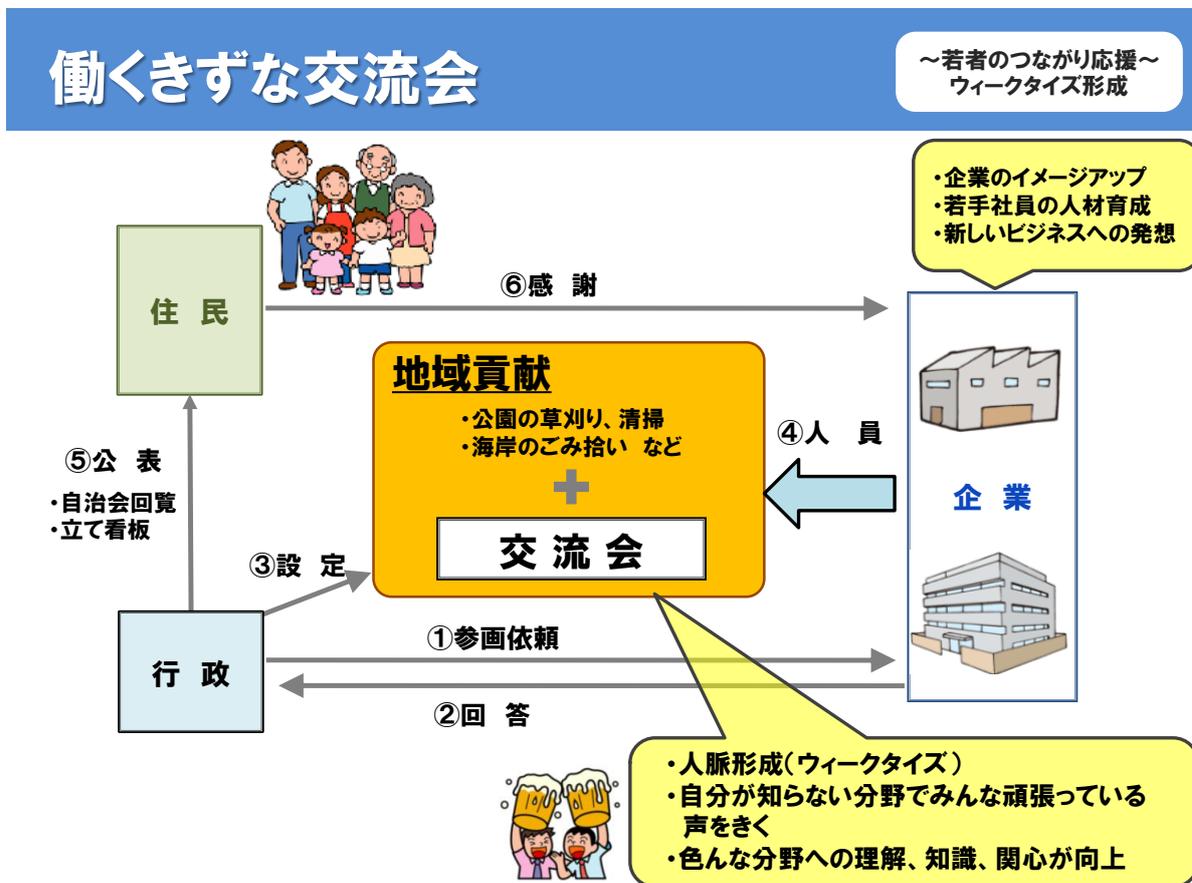
(2) 目的

- ・ 若年同士の緩やかなつながり（ウィークタイズ）を促進するため、異業種間の交流会を実施し、人脈の形成や情報交換の機会を増やすことで、雇用に対する不安と不満を軽減する。
- ・ 交流会と併せて地域貢献活動を実施することにより、更に交流を深めると共に、企業のイメージアップを促進する。

(3) 事業内容

- ・ 「地域貢献活動によって企業のイメージアップが図れる上に、その活動を通じて若手社員同士が交流を行うことで、新たなビジネスチャンスの発想に寄与し人材育成にも役立つ」として企業に協力を求め、社員の参加を呼びかける。
- ・ 参加者は地域のごみ拾いや草刈りなどの地域貢献活動を実施した後、参加者同士で交流会に参加してもらう。
- ・ 参加者は会社名と名字を記載したゼッケンを着用し、夕方の地域貢献活動とセットで交流会を行う。
- ・ 協力企業に対しては、地域貢献活動に参画したとしてその都度以下のPRを行う。
 - ① 地域のごみ拾いや草刈りの場合：自治会回覧にて公表
 - ② 海岸のごみ拾いの場合：駐車場や砂浜に設ける看板にて公表（シーズン中）
- ・ 地域貢献活動は、複数回連続して実施するシリーズとし、参加者は極力同一のメンバーでの参加を呼びかけ、継続的な交流促進を目的とする。

(4) 事業イメージ



(5) 成果指標

- 開催回数 12回 (3回×4箇所) (2年後までに) ※福井地区2箇所、丹南・嶺南2箇所

おわりに

本県は、「幸福度日本一」であり、私達はそこに住む日本一幸せな県民である。しかし、「幸福度日本一と言われても実感が無い」というのが、メンバー共通の認識であった。

「希望とは何か?」、「幸福とは何か?」、「私達は本当に幸せなのか?」という疑問から、私達の研究は始まった。

これらの疑問を解決するため、記述式アンケートに加え、エスノグラフィーという手法を用いて、県民の深層を探るとともに、「希望学」や「幸福度」等様々な調査研究の知見を活用し、県民の「幸福」や「希望」を高めるための政策を検討してきた。

実は、「幸福」という精神的・抽象的なものを政策のテーマとして取り扱うことは戸惑いもあった。幸福の感じ方は人それぞれではないか、という意見もあるだろう。

しかし、研究を通じて分かったことは、将来に向けて幸福であり続けるためには、そのための努力と行動が必要だということ。どうすれば、県民が「希望」を持ち、幸福になるか。そのために、まず私達が、「笑顔で希望を持てる」福井県の実現に向け、行動に移さなければならない。

この研究を通して、幸福度日本一を誇る本県が、さらに幸福を実感できるようにするために、希望を共有しつなぐことが重要であると考え、『福井県に自信と誇りを持つ(福井プライドシステム)』、『若者のつながり応援(ウィークタイズ形成)』の2つの政策を提案した。県民一人ひとりが「福井県に生まれて良かった、暮らしてよかった」と実感できる社会の実現に向けて、私達も取り組んでいきたいと思う。

最後に、的確なご指導をいただいた田中講師、貴重なふるさと希望指数(LHI)研究報告書におけるアンケートのデータ提供や玄田教授との橋渡しをしていただいたアドバイザーの笠島企画主査(政策推進課)をはじめ、アンケートに御協力いただいた仁愛大学、福井県立大学、福井工業大学、株式会社マルツ電波、福井市シルバー人材センターの皆様に、厚くお礼申し上げます。

【研究活動等の経過】

日 時	場 所	内 容
H25. 6. 13 (木) 9:00～16:45	県庁中会議室	第1回全体研修日
H25. 6. 14 (金) 9:00～16:45	県庁中会議室	第2回全体研修日 (グループ決定)
H25. 6. 21 (金) 14:00～19:00	自治研修所	ミーティング① (課題整理等)
H25. 6. 28 (金) 14:00～19:00	自治研修所	ミーティング② (方向性の確認等)
H25. 7. 4 (木) 14:00～18:00	自治研修所	ミーティング③ (政策ツリー作成等)
H25. 7. 12 (金) 9:00～16:45	県庁正庁	第3回全体研修日
H25. 7. 15 (月) 13:00～17:00	G員自宅	ミーティング④ (アンケート内容確認)
H25. 7. 23 (火) 11:45～19:00	自治研修所	プレアンケート調査 ミーティング⑤ (SWOT分析等)
H25. 7. 30 (火) 10:00～11:30 17:00～21:00	仁愛大学 明新公民館	アンケート協力依頼 (趣旨説明) エスノグラフィー調査① ミーティング⑥ (アンケート様式修正)
H25. 7. 31 (水) 15:00～16:30	県立大学	アンケート協力依頼 (趣旨説明)
H25. 8. 2 (金) 11:00～12:00	仁愛大学	記述式アンケート回収
H25. 8. 5 (月) 10:00～11:30	金井学園	アンケート協力依頼 (趣旨説明)
H25. 8. 7 (水) 13:15～24:15	県庁 他	エスノグラフィー調査② ミーティング⑦ (中間発表資料修正等)
H25. 8. 8 (木) 13:30～14:30	金井学園	意見交換会
H25. 8. 9 (金) 9:00～16:45	県庁中会議室	第4回全体研修日 (進捗状況の報告)
H25. 8. 13 (火) 17:00～18:30	仁愛大学	大学教員との意見交換会 記述式アンケート回収
H25. 8. 16 (金) 15:00～24:45	福井市役所別館	ミーティング⑧ (アンケート調査分析)
H25. 8. 21 (水) 14:00～24:15	福井市役所別館	ミーティング⑨ (政策提言の検討等)
H25. 8. 28 (水) 13:30～16:30	シルバー人材センター	エスノグラフィー調査③
H25. 8. 30 (金) 13:30～20:00	福井市役所別館	熊本県からの出向職員との意見交換会 ミーティング⑩ (政策提言の検討等)
H25. 8. 31 (土) 14:00～15:30	福井県立図書館	希望学講演会 (聴講)

日 時	場 所	内 容	日 時
H25. 9. 2 (月)	13:30～14:30	福井工業大学	記述式アンケート回収、意見交換会
H25. 9. 6 (金)	14:00～20:30	福井市役所別館	ミーティング⑪ (模擬プレゼン資料作成)
H25. 9. 11 (水)	16:00～25:30	福井市役所別館	ミーティング⑫ (模擬プレゼン資料修正)
H25. 9. 12 (木)	9:00～16:45	県庁中会議室	第5回全体研修日 (模擬プレゼン)
H25. 9. 18 (水)	17:00～20:20	福井市役所別館	ミーティング⑬ (政策企画書の検討)
H25. 9. 27 (金)	18:00～23:30	福井市役所別館	ミーティング⑭ (政策企画書の修正)
H25. 10. 3 (木)	14:00～21:30	福井市役所別館	ミーティング⑮ (政策企画書の修正)
H25. 10. 11 (金)	14:00～27:00	福井市役所別館	ミーティング⑯ (政策企画書の修正)
H25. 10. 17 (木)	17:00～22:00	福井市役所別館	ミーティング⑰ (プレゼン資料の修正)
H25. 10. 24 (木)	10:00～16:45	県庁正庁	第6回全体研修日 (研究成果発表)

資料編

アンケート用紙

＜調査企画・実施＞
平成25年度 福井県行政経営戦略研修Eグループ
佐々木千佳、嶋田良和、原淳一郎、平森幸弘

県民の「幸福度」「希望」を高める戦略形成のためのアンケート

(大学生対象)

平成25年8月実施



調査についてのご説明

福井県では若手職員を対象とした「行政経営戦略研修」によって、独自性のある優れた政策を企画・実行できる構想力や実践力を備えた職員の育成を図っており、我々のグループでは、県民の「幸福度」「希望」を高める戦略について研究を進めています。

他県と比較して福井県は、幸福度や豊かさを示す指数が上位にランキングされていますが、幸福度や希望は主観的で一概に捉えることが難しい指標です。

本アンケートは、福井県のみさんの幸福度や希望が何と関連しているのか、幸福度や希望をどのように捉えているのかについて明らかにすることで、より具体的で効果的な政策立案につなげることを目的としていますので、ご協力を頂きますようよろしくお願いいたします。

問1 あなたの性別・年齢についてお答えください。

1. 男性

2. 女性

年齢

歳

問2 あなたの育った家族構成について、当てはまるものすべてを選んでください。

1. 曾祖父

2. 曾祖母

3. 祖父

4. 祖母

5. 父

6. 母

7. 兄（人）

8. 弟（人）

9. 姉（人）

10. 妹（人）

11. その他（具体的に：）

※兄弟姉妹がいる場合は、人数もご記入ください。

問3 福井県以外の都道府県に住んでいたことがありますか？ 当てはまるものを1つ選んでください。

1. ない

2. ある（都道府県名：）

※複数ある場合は全てご記入ください。

問4 あなたは今まで福井県に住んで何年経ちますか？ 居住年数をお答えください。

福井県の居住年数

年

問5 あなたの居住形態について、当てはまるものを1つ選んでください。

1. 親と同居

2. 一人暮らし

3. その他（具体的に：）

※寮、シェアハウス、祖父母と同居、など

問6 あなたはこれまでにアルバイトや報酬をもらうような仕事等を経験したことがありますか？

1. はい（具体的に：）

2. いいえ

※飲食店、物販店、など具体的な業種をお答えください

問7 あなたは今後も福井県に住み続けたいと思いますか？ 当てはまるものを1つ選び、その理由をお答えください。

1. はい

2. いいえ

理由：

※はい、いいえ、どちらの場合もお答えください

エスノグラフィー質問シート

エスノグラフィー（対面式アンケート）質問シート

属性		日時：平成25年 月 日（ ） : ~ : 場所：	
【性別】 男 女	【年齢】 歳	【県外居住歴・居住年数】 福井居住年数 年 県外居住 ない・ある (何県：)	【育った家庭環境】 曾祖父 曾祖母 祖父 祖母 父 母 兄（ 人）弟（ 人）姉（ 人）妹（ 人） その他（具体的に：)
【就労形態】 学生 サラリーマン 自営業 リタイア 無職 その他（ ） バイト経験 あり・なし		【居住形態】 持ち家（親の家・自分の家） 賃貸・その他（ ）	【現在の家庭環境】 曾祖父 曾祖母 祖父 祖母 父 母 自分 妻 子ども（ 人） 孫 その他（具体的に：)

最低限聞くこと

【居住希望】 今後も福井住みたい はい いいえ	何故？
【幸福度】 幸福 やや幸福 やや不幸 不幸	幸福であり続ける要素は？
【将来の希望・行動】 ある ない 行動してる してない	どんな希望？どんな行動してる？ 何故ない？
【将来の不安】 ある ない	どんな不安？
【県外アピール】 できる できない	どんなアピール？ 何故できない？
【社会貢献活動】 参加あり なし 幸福感あり なし 今後もしたい したくない	何故参加したいと思わない？ 社会貢献活動と幸福感との関係は？
【つながり】 家族 家族以外の親族 地域や近所の方 職場や仕事 仕事以外の友人 スポーツ趣味 NPO活動 習い事 ボランティア活動 その他（ ）大切にしてい	